

令和4年度
杉並区立図書館運営状況報告書

令和5年2月

杉 並 区

目 次

I 杉並区立図書館の運営状況評価の実施について	1	<資料1>図書館別実績数値	1 5
II 令和3年度の評価		杉並区立図書館の実績数値	1 6
1 評価の目的	2	(参考) 図書サービスコーナー等の 実績数値	1 6
2 評価対象と項目	2	図書館別実績数値	
3 実施方法	2	中央図書館	1 7
4 総括的評価	2	永福図書館	1 7
5 評価項目(10項目)の評価	6	柿木図書館	1 8
III 10項目の評価のまとめ (平成25年度～令和3年度)	9	高円寺図書館	1 8
IV 図書館協議会の評価	1 2	宮前図書館	1 9
		成田図書館	1 9
		西荻図書館	2 0
		阿佐谷図書館	2 0
		南荻窪図書館	2 1
		下井草図書館	2 1
		高井戸図書館	2 2
		方南図書館	2 2
		今川図書館	2 3
		杉並区立図書館の概要	2 4
		<資料2>項目別自己評価表	2 5
		<資料3>図書館別総合評価	4 6
		<資料4>利用者満足度調査	
		1 アンケート用紙の配布・回収数及び回答者の 状況	4 7
		2 アンケート調査項目	4 7
		3 項目別の回答割合	5 0
		4 アンケート調査項目に対する自由意見	5 1
		5 利用者満足度調査結果	5 2
		<資料5>杉並区立図書館サービス基本方針 ..	5 7

I 杉並区立図書館の運営状況評価の実施について

杉並区立図書館では、平成 24 年度末に 10 年後の図書館像に向け「杉並区立図書館サービス基本方針」（以下、「サービス基本方針」という。）を策定し、「学びの場」「知の共同体」「楽しい交流空間」の 3 つの視点と取組の方向を示している。

この「サービス基本方針」に基づく図書館サービスの成果や達成度を明らかにし、図書館運営の効率化及び図書館サービスの向上を図るとともに、その結果を区民に公表することで図書館運営の客観性及び透明性を高めるため、毎年、前年度の運営・サービスについて運営状況評価を実施している。

評価にあたっては、前年度のサービス実績について各図書館（以下、「各館」という。）において自己評価を行い、令和 4 年 5 月に実施した利用者満足度調査の結果を分析し評価の基礎資料とした。

令和 3 年度の評価として、総括的評価、評価項目（10 項目）の評価を第 2 章に記載した。

指定管理館 6 館において、令和 3 年度から新たに指定管理期間がスタートし、そのうち成田図書館、阿佐谷図書館、永福図書館では、指定管理者が変更になった。さらに、永福図書館は、集会施設であるコミュニティふらっと永福との複合施設として、旧永福体育館跡地に移転改築した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響としては、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置により、永福図書館、今川図書館の開館時間を、令和 3 年 4 月 14 日から 9 月 30 日の間、21 時までから 20 時までに短縮した。また、区職員が運営する柿木図書館、高円寺図書館、西荻図書館では、新型コロナウイルス感染者数増加により BCP（業務継続計画）※が発動されたことから、保健所応援体制確保のため、令和 4 年 1 月 21 日から 3 月 21 日までの 2 か月間、開館時間の短縮や館内立ち入りの制限等、提供するサービスを制限した運営を行った。

実績数値については、新型コロナウイルス感染症拡大による休館や施設・設備の改修工事休館の影響が大きかった令和 2 年度と比較することが難しいため、中央図書館大規模改修前である平成 30 年度の数値とも比較しながら評価を行った。

さらに、第 3 章では、令和元年度から令和 3 年度にかけて行った 10 項目の重点評価をまとめ、成果と今後の課題を示した。

以上の評価の結果をふまえ、図書館協議会が第三者評価を行った。その意見・提言は第 4 章に掲載している。

※BCP…杉並区業務継続計画のこと。緊急時に優先度の高い業務の継続や保健所業務の支援に向けた応援体制を確保するための計画。

II 令和3年度の評価

1 評価の目的

- 図書館サービスの成果や達成度を明らかにし、効率的・効果的な図書館運営を実現することにより、創意工夫による特色ある図書館づくりを図る。
- 経営評価プロセスへの区民参画と運営状況評価結果の公表により、図書館運営における客観性・透明性の向上を図る。

2 評価対象と項目

- 杉並区立図書館 13 館の事業（令和3年度）
- 「図書館サービス基本方針」を踏まえて作成した 10 の評価項目（p. 25）

3 実施方法

（1）図書館の自己評価

令和3年度の杉並区立図書館の取組状況について、各館の実績数値及び項目別自己評価（資料1、2）に基づき、「総括的評価」及び「評価項目（10項目）の評価」を行う。

（2）利用者満足度調査

利用者に対し、アンケートにより満足度調査を行う。（アンケート回収数：3,355枚）

4 総括的評価

（1）蔵書の状況 …資料1（p. 15～24）

令和3年度の蔵書冊数（令和4年3月末現在）は2,088,517冊であった。蔵書規模の適正化計画^{※1}の計画期間中に、目標数値に達しなかった館が継続して取り組んだ結果、前年度の2,092,868冊から約4,000冊減少している。

蔵書の新鮮度^{※2}については、全館で6.4%と前年度の6.6%を下回った（p. 16）。蔵書規模の適正化により古い蔵書を整理し、買い替えを進めてきたが、資料費予算額の減により、購入冊数が83,166冊と前年度84,709冊の98.2%となったことが要因である（p. 16）。各館別にみると、中央図書館が8.6%と最も高く、地域図書館では4館が全館の平均よりも高い割合であった（p. 17～23）。

※1 蔵書規模の適正化計画＝図書館の規模に限界がある中で、膨大な蔵書を見直し、利用しやすい図書館を目指して取り組んだ資料除籍計画。計画期間は平成28年度から令和2年度まで。

※2 蔵書の新鮮度＝開架冊数のうち新たに購入した冊数の割合。

（2）図書館活動 …資料1（p. 15～24）

各館の取組結果と自己評価については、資料2（p. 25～45）に項目別に示している。また、中央図書館による総合評価は、資料3（p. 46）のとおりである。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大により開館時間の短縮（永福図書館、今川図書館〔4月～9月〕）や、区職員の保健所応援によるサービスの制限（柿木図書館、高円寺図書館、西荻図書館〔1月～3月〕）があった。

利用登録者数をみると前年比は約80%で大幅に減少しており、有効期限切れとなったまま更新をしていない利用者が増えていると考えられる。しかしながら、新規登録者数や利用実績の数値は上昇しており、新規登録者数は17,331人で、前年比は約116%となっている。また、年間個人

貸出人数 1,261,419 人、年間個人貸出冊数 4,510,273 冊と、いずれも前年比は約 130%であり、平成 30 年度との比較においても、貸出人数が 110%、貸出冊数が 103%と増加している。

大規模改修を行い令和 2 年 9 月に開館した中央図書館の実績を、改修前の平成 30 年度と比較すると、年間の貸出人数は約 202,000 人で、平成 30 年度の約 175,000 人の 115%となった。総貸出冊数も約 708,000 冊で、平成 30 年度の貸出冊数約 620,000 冊を大きく上回っている。年代別の貸出人数については、13 歳から 18 歳の中・高校生世代が 5,661 人で平成 30 年度 4,556 人の約 124%、19 歳から 29 歳が 14,583 人で 9,170 人の約 160%、30 歳から 39 歳が 28,468 人で 23,484 人の約 120%となっており、比較的利用が少ないと考えられていた 10 代から 30 代の利用が定着したと言える。人数の増加及び定着の理由として、中央図書館の閲覧席が改修前より増えていることや、感染防止のため数を減らしていた閲覧席を当初の数に戻したことが要因と考えられる。

行事については、令和 2 年度に中止していた講座やおはなし会等を再開することができた。実施にあたっては、ぬり絵や工作キットの配布や本の福袋等、滞在時間を短くし家に持ち帰って楽しむものを用意したり、集会行事では人数制限をして複数回実施したりする工夫を行った。

中央図書館に続き、永福図書館でも開始した有料データベース等の印刷サービスの利用実績は、370 件で、そのうち 121 件は国立国会図書館が図書館に送信しているデジタル資料の印刷であった。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和 3 年度は指定管理者のインセンティブ事業（創意工夫に基づく事業）を中止とした。

（3） 経費（コスト） …資料 1（p.15～24）

全館の経費を見ると、貸出 1 冊当たり 404.8 円、利用者 1 人当たり 679.1 円となり、平成 30 年度と比較すると、それぞれ 102%、111%と微増している。貸出 1 冊当たりのコストが最も低かったのは永福図書館の 232.6 円、利用者 1 人当たりで最も低かったのも永福図書館の 353.6 円であった。永福図書館については、移転改築で新しい施設になったことや集会施設との複合施設となったことによる利用者増がコスト低下の要因として考えられる。

（4） 利用者満足度調査に基づく評価 …資料 4（p.47～56）

利用者満足度調査は令和 4 年 5 月に行い、各館の配布数を 300 枚以上、回収数 200 枚以上となるようにした。その結果、回収数は中央図書館が 346 枚、地域図書館が 3,009 枚（平均 1 館約 250 枚）であり、回収率の平均は 79.5%であった（p.47）。なお、今年度初めて導入したインターネットによる回答は、全体で 176 件であった。

回答者の属性をみると、令和 3 年度調査（以下、この項で「前年度調査」という）と同様 40 代、会社員（公務員）が最も多く、インターネットによる回答では、30 代、会社員（公務員）が最も多かった。

特徴的な数値を上げると、中央図書館では、10 代の回答が 9.3%で全館平均の 2.5%を大きく上回り、来館頻度が「1 週間に数回」という回答が 31.8%と全館の中で最も多かった。これは、日常的に閲覧席を利用して学習やリモートワークを行う人が定着したことが反映されたと考えられる。また、永福図書館では、13 の項目のうち、8 の項目で前年度調査よりも満足度が上がっている。前年度調査がリニューアルオープン間もない時期の実施だったこと、1 年を経過し安定した運営が進んでいることなどが理由と考えられる。

① 項目別評価（p.50, 52～56）

各項目について「満足」「やや満足」を合わせた回答率をみると、資料に関する項目では前年度調査より上回っている館が多い。行事等のサービス面に関する項目では、感染防止対策を取りながら行事を再開したことにより、前年度調査を上回った館が多かった。

【職員の対応】

「満足」「やや満足」を合わせた回答率は各館で90%を超え、全館では97.4%であった。増減はあったが、全館では0.1ポイントの上昇となり、高い満足度を維持することができた。

【蔵書に関する項目】

「借りたい本は揃っているか」で「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度調査を上回った館が7館あったが、全館では77.7%とほぼ同じ割合となった。しかし、前年度調査で満足度が上がったが今回は下がっている館も5館あり、今後も利用者の世代や興味関心を考慮した選書に力をいれていく必要がある。

「新聞・雑誌など閲覧用資料」の「満足」「やや満足」を合わせた回答率は全館で80.9%であり、7館で満足度が下がっている。雑誌については休廃刊が毎年増えている一方で、自由記入意見には、種類を増やすことや特定の世代やテーマについての雑誌の要望が各館で寄せられており、雑誌利用へのニーズは依然として高いことがわかる。雑誌の休廃刊の状況をみながら、どのように雑誌のコレクションを維持していくか、引き続き検討が必要である。

「書架・資料の状態」は、全館で前年調査より0.5ポイント上昇し88.8%となった。

特に中央図書館では、令和2年9月のリニューアルオープン後の2回の調査では休館前と比べて変化が見られなかったが、今回は7ポイント上がっている。改修で施設が新しくなり貸出が増えたことで、書架にある資料が少なくなっていたが、開館から約1年半が経過してようやく書架にある資料が増え、整理が進んだためと考えられる。

その一方で、前年度調査よりも大きく下がっている館もみられるため、蔵書規模の適正化計画は終了したが、引き続き書架の調整や資料の整備に努めていく必要がある。

【館内施設の利用しやすさ】

「満足」「やや満足」を合わせた回答率は11館で90%を超えており、全館では92.6%と高いが、前年度調査よりも0.3%下がっている。施設の老朽化がすすみ、前年度調査より満足度が大きく下がっている館もあり、自由記入意見では、エレベーター設置の要望や、改築した図書館と比較した使い勝手の違い、設備の改善が求められている。一方、書架配置の変更や照明設備の改修、閲覧席の増設等を行った館では満足度が上がっていることから、大規模改修・改築だけでなく利用しやすさへの配慮による整備が効果的であることがわかる。

【図書館サービスについての項目】

「予約・リクエスト」の「満足」「やや満足」を合わせた回答率は全館で79.6%であり、前年度調査とほぼ同じ割合となった。

「利用したことはない」の回答率は全体で13.4%となり、利用していない理由としては、「利用しなくても支障がない」が67.2%と最も多く、「知らなかった」9.2%、「利用の仕方がわからない」15.2%であった。このうち「利用の仕方がわからない」は、前年度調査より2.8ポイント上がっており、館内の端末機や図書館ホームページの操作方法等の説明が足りていないことがわかる。利用者へ個別に操作説明をする機会を作ったり、分かりやすい操作説明資料を配布したりするといった取組が必要である。

一方、中央図書館は「満足」「やや満足」を合わせた回答率が前年度調査の10ポイント増となっており、「利用したことはない」の回答が前年度調査の24.8%から16.0%へと減少していた。レファレンスカウンターを1階の総合カウンターに設置したことにより、所蔵調査の際に他自治体の資料を案内することで、リクエストサービスの利用につなげることができている。これは相互貸借によるリクエスト処理件数が前年の約2倍になっていることにも表れている。利用者が気軽に所蔵調査を依頼できるようにすること、レファレンスサービスの利用しやすさからリクエストサービスの利用へとつなげていくことにも取り組む必要がある。

「レファレンス（調べもの相談）」は、「満足」「やや満足」を合わせた全館の回答率が38.1%となり、4館で前年度調査を上回った。「利用した」人の満足度は、全館で「満足」「やや満足」を合わせて93.2%と前年度調査とほぼ同じであった。「利用したことはない」の回答率は全館59.1%で、理由の内訳をみると、「利用しなくても支障がない」が62.1%、「知らなかった」が16.7%であった。「知らなかった」の回答は前年度調査より0.8ポイント減っているが、「利用しなくても支障がない」が1.3ポイント増となっており、前述のとおりレファレンスサービスをもっと気軽に利用してもらえるような工夫、PRが必要である。

「館内表示（資料展示、飾りつけ等）」では「満足」「やや満足」を合わせた回答率が全館で81.3%と前年度調査の1.6ポイント増となり、ほとんどの館で前年度調査を上回った。魅力ある資料展示は、資料利用、貸出の促進に効果的である。また、地域の人や生徒の作品展示、子どもたちの作品による飾りつけ等も行われており、今後も各館で情報共有をしながら工夫していきたい。

「行事」については、「満足」「やや満足」を合わせた回答率は全館で34.0%であったが、利用したことがある人の9割以上が「満足」「やや満足」と回答している。

「利用したことはない」の回答率は全館62.7%で、理由の内訳をみると「利用しなくても支障がない」が64.2%と最も高かった。「知らなかった」の回答率も11.7%と前年度調査よりは減少したが、まだ高い数値である。本調査の回答が多い40歳、50歳代を対象が参加したくなるような企画や参加しやすい時間帯での実施、効果的な周知方法の工夫を進めていく必要がある。

「資料のリユース」^{*}は、全館では前年度調査より1.3ポイント上昇した。「利用したことはない」の割合や、その理由の割合については前年度調査とほぼ同様であった。蔵書規模の適正化計画が終了し、除籍数の減少によりリユース資料も減っているが、2年度に実施していなかった中央や、児童書のリユースを休止していた南荻窪・高井戸が3年度に再開している。

毎月決まった日に雑誌のリユースを行ったり、子どもの本のリサイクル市を開催したりした館では満足度が高いことから、リユースの方法や設置場所の周知を利用者の目に触れやすい形で行うことが効果的である。

※資料のリユース＝図書館で不要となった本や雑誌を利用者に提供する等の有効活用する取組。

「OPAC等による図書の検索」については、「満足」「やや満足」を合わせた回答率は70.9%で全館の満足度の割合の構成も前年度調査とほぼ同様であった。「利用したことはない」の回答のうち、「利用の仕方がわからない」が17.3%と前年度調査の19.8%から改善されていないため、わかりやすい操作案内を配布する等の取組を進めていく。

「パソコン利用」については、「満足」「やや満足」を合わせた回答率が全体で39%と依然として低い。中央図書館、永福図書館等、電源の提供やパソコンの使用できる席を増やした館では、満足度が高い。一方、「利用したことはない」の回答が54.9%、そのうち「知らなかった」が11.6%であったが、「利用しなくても支障がない」が68.5%と、利用の目的が読書や貸出中心とした利用者層も多いことがわかる。図書館の利用目的や過ごし方の多様性を考慮した環境整備を進めていく必要がある。

「情報発信・PR」では、「満足」「やや満足」を合わせた回答率が全体で65.1%となり、ほぼ全館で前年度調査を上回った。中でも、永福図書館が12.9ポイント、阿佐谷図書館が13.3ポイント上昇している。永福図書館では、館内のデジタルサイネージを活用して行事等の情報提供を行っている。阿佐谷図書館では、外部から送付されてくるチラシをクリアファイルに入れて取りやすくしたり、館の特色である「阿佐ヶ谷文士村」の作家をデザインした暖簾を季節ごとに取り替えたりする等の効果的なPRを行っている。

一方で、「利用したことはない」が全体の27.9%、そのうち「知らなかった」という回答が22.7%と前年度調査と変わらないことから、引き続き効果的な情報発信について取り組んでいく。

② 自由記入欄での意見 (p. 51)

自由記入欄に記入があったのは、全館で976件あり、回収数の29.1%であった。

肯定的な意見では、図書館施設に関すること、職員に関するものが多かった。

施設面では、中央図書館と永福図書館についての施設や閲覧席への意見が多かった。他の図書館では、長年利用している施設に対しての愛着や、昔ながらの良さについての意見もあった。

職員に関することでは、「子どもに対して粘り強く対応してもらった」「検索機の使い方を丁寧に教えてもらった」等の感謝の言葉も132件あり、職員の励みとなっている。

要望として多かったのは蔵書に関すること、予約・リクエストに関すること、施設に関することであった。蔵書に関することでは、前年度調査同様、新刊書が少ない、本が古い、シリーズものの欠本についての意見が多かった。新刊書の購入や古い本の買い替えを引き続き行ってだけでなく、表紙を見せて棚に並べたり、新規購入本の展示をしたりと、利用者に新刊本をアピールする取り組みを続けていく必要がある。予約・リクエストに関することでは、借りるまでに待ち時間が長い、予約が集中している図書の冊数を増やしてほしい、といった要望が目立った。施設に関することは、閲覧席の増設、施設の建替やエレベーターの設置等が挙げられている。

この他、蔵書検索システムが使いづらい、図書館ホームページがわかりにくい、自分が借りた本の履歴を残してほしい等の意見もあり、システムの利便性向上が求められている。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和3年4月12日にまん延防止等重点措置、4月25日は緊急事態宣言が発令されたことから、4月14日から9月30日まで複合施設である永福図書館と今川図書館では、21時までの開館時間を20時までに短縮しての運営となった。

緊急事態宣言下も、閲覧机上へのアクリル板間仕切りの設置、入口や館内の要所に消毒液の設置、密を避けるように並ぶためのガイドを床に表示する等の感染防止対策をとり、令和2年度のような全館臨時休館という措置は取らずに開館を続けた。

行事については、「行事等実施のガイドライン」に沿った感染防止対策を取りながら実施した。児童向けのおはなし会や工作会などは、1回の参加人数を制限したうえで、回数を増やして行ったり、児童コーナーのフロアを広く使ったりする等、密にならないよう配慮して開催した。成人向けの行事についても、オンラインやリモートによる開催ではなく、対面で開催できるよう換気に気を配って会場づくりを行う等、安心して参加できる環境を整えた。

また、区職員が運営する柿木図書館、高円寺図書館、西荻図書館では、区内の感染者数増加によりBCP（業務継続計画）が発動されたことから、保健所応援体制確保のため、令和4年1月21日から3月21日までサービスを制限した運営を行った。この期間中は、館内の入口付近のカウンターを臨時窓口とし、予約本の受取や返却業務を行ったが、職員数が確保できないため受付時間を17時までとし、毎週月曜、木曜は完全休館とした。柿木図書館ではカウンター付近でミニ展示を開催するなどし、利用者が本に触れる機会が継続できるよう取り組んだ。

5 評価項目（10項目）の評価 …資料2 (p. 25～45)

(1) 資料の充実 (p. 26～27)

蔵書の総冊数は約2,080,000冊となり、蔵書規模の適正化計画後も収集だけでなく計画的な除籍を行い、適正な蔵書規模を維持している。

各館での資料収集は、資料管理計画に基づいて行っている。収集にあたっては、新刊本のカタログだけでなく、本の展示会で現物を見て選書をする等、積極的な情報収集を行い、分担収集分野や特定課題分野の資料の収集に努めた。また、蔵書構成を見直しながら、資料の除籍をしつつ、補充・買い替えによる更新を進めた。方南図書館では、法律関係や旅行ガイド等、情報更新が必

要な資料の買い替えを行った。また、今川図書館では特定課題「世代間交流」の常設書架に資料を増やすため、関連図書の収集を行った。

開架の資料については、蔵書の新鮮度を維持するとともに、出版年が古くても必要な資料が多い児童書については、買い替えをしつつ、利用者がいつでも手に取れるようにしておくことが必要である。

(2) 誰もが利用しやすい図書館に (p. 28～29)

① 有料データベース等印刷サービスの開始

有料データベース及び国会図書館デジタル資料の印刷サービスは、中央図書館に続き、永福図書館でも開始した。引き続き、地域図書館への導入を計画的に進めていく。

② 音楽配信サービスの開始

CD等の視聴覚資料については、新たな収集を行っていないため、令和3年4月から、インターネット音楽配信サービスである「ナクソスミュージックライブラリー」のサービスを開始した。

③ バリアフリーへの取組

館内のサインや書架見出し、掲示物については、ユニバーサルデザインを採用したデザインに変更したり、感染防止対策の案内表示をわかりやすいものに見直したりする改善を行った。また、展示棚を利用者の目につく位置に移動したり、新たなテーマ展示のコーナーを設置したりする等、利用者目線での利用しやすい図書館づくりを行った。高井戸図書館では、LLブック（やさしく読める本）を積極的に収集し、ディスレクシア（読み書き障害）についての研修を行った。

(3) レファレンス（調べもの相談）の充実 (p. 30～31)

中央図書館では、休館中にも Web レファレンスの件数が増加したが、開館後も増加傾向にある。非来館型サービスとして今後も増加が見込まれるが、直接やりとりができない難しさもあり、職員の能力向上も必要となる。

各館では、研修に参加した職員が、職場内でフィードバックすることで、全体のスキルアップを図ったり、児童向けのレファレンスに力をいれ、調べ方のイベントや児童用のレファレンスカウンター設置、児童用参考図書の買い替えを行った。

(4) 講座・講演会・行事の開催 (p. 32～33)

成人向けの講演会は、参加人数を減らしたり、高井戸図書館の俳句講座のように屋外で実施したりする等、感染防止対策を工夫しながら行った。中央図書館では、連続講座である音訳講習会のうち1回をオンラインで開催した。また、リニューアルオープン時に開催できなかった記念講演会を、開館一周年記念講演会として実施することができた。下井草図書館でも、前年に緊急事態宣言発令等の影響で延期した講演会を実施することができた。

(5) ボランティアとの協働 (p. 34～35)

感染症拡大の影響で、ボランティアが活動を止めてしまった館があった一方で、永福図書館や柿木図書館のように、新たにボランティアの受け入れを行うことができた館もあった。ボランティア連絡会が開催できなかった館では、個別に連絡を取り合うなど、情報共有を行い、活動の継続を図った。ボランティアとの協働事業を安定的に継続していくためには、スキルアップと新規のボランティアを増やすための研修、講座を実施していくことが課題である。

(6) 快適な読書空間の整備 (p. 36～37)

中央図書館では、「本の広場」への出入口に安全対策のための段差解消スロープを設置する等

施設整備に努めた。各館とも、コロナ感染症対策により席数制限をする一方で、多目的室を開放して閲覧席を増やした。宮前図書館や今川図書館では、明るい雰囲気装飾を施し、快適に過ごせるような空間づくりをした。

今後も各館で築年数に関わらず、安全で居心地のよい場となるよう努めていく。

(7) 子ども読書活動の推進 (p. 38~39)

乳幼児向けのおはなし会等、令和2年度に実施を見送っていた行事を再開することができた。新規事業としては、成田図書館では「0、1、2歳のわらべうたとえほんの会」を毎月行い、高井戸図書館では家庭での読書を記録する「家読(うちどく)ノート」を配布した。高円寺図書館では親子で参加できる「図書館探検」を実施し、図書館のバックヤードの見学等を行った。

(8) 他機関との連携 (p. 40~41)

① 学校との連携

コロナ禍であっても、小学生の図書館見学や中学生の職場体験の受け入れや、学級文庫や調べ学習用図書の団体貸出等について、継続して連携を保つことができた。

今川図書館では、児童生徒が授業で作成した本の帯や布絵本を展示し、西荻図書館では中学生の作成した壁新聞を展示した。また、阿佐谷図書館で中学生が図書館のおはなし会で読み聞かせを行う等の取組も進んでいる。

② 地域施設との連携

保育園や児童館等への団体貸出や施設での読み聞かせや、近隣の大学、ゆう杉並、就労支援センター、ケア24等と連携し、講演会や講座、展示、就労支援(職場体験等)を行った。また、今川図書館では、視覚障害者総合支援センターの協力で点字資料の協働展示を行った。高井戸図書館では、高千穂大学美術部の作品展示や、ゆう杉並と協働したおすすめ本の展示等を行った。

今後も、様々な関係機関、施設との連携により、未利用者へのPRや多様な事業を展開することが期待できる。

(9) 人材育成・研修計画 (p. 42~43)

区職員の司書有資格者を増やすため、区職員1名に司書講習を受講させるとともに、司書資格を持った会計年度任用職員を雇用し、中央図書館及び直営の地域館3館に配置した。

研修については、全職員を対象とした初任者研修や、レファレンス研修を着実に実施した。また、各館では、都立図書館等他機関の研修やオンラインの研修にも積極的に参加し、その成果を職場にフィードバックすることで、知識の共有を図り、学びを深めることができた。さらに、職場内ミーティングでのOJTにより、窓口マニュアルの確認や課題の共有を行い、スキルアップを図った。

(10) 広報・情報発信 (p. 44~45)

SNSの活用については、南荻窪図書館がTwitter(ツイッター)を利用したこまめな情報発信を開始した。中央図書館では、区公式Twitterで行事の案内を行っている。

紙媒体での広報では、地域館でカラー印刷機を導入して印刷物を刷新したり、館独自のキャラクターを活用したり、注目してもらえるような工夫をした。また、チラシを置くスペースや掲示板を地域の情報を発信する場として改良したり、近隣の施設に図書館のおたよりを置いたりする取組を行った。今後も、図書館ホームページや各館のおたよりをはじめ、様々な媒体により多くの人に情報が届くような工夫を続けていくことが重要である。

Ⅲ 10 項目の評価のまとめ(平成 25 年度～令和 3 年度)

「サービス基本方針」は令和 4 年度が最終年度となることから、令和元年度から令和 3 年度の「運営状況報告書」では、10 の評価項目について毎年 3～4 項目を重点項目として取り上げ、平成 25 年度からの総合的な評価を行ってきた。

総合的な評価を行った年度から令和 3 年度までの成果を補った上で、平成 25 年度から 9 年間の成果及び課題と今後の取組の方向性をまとめた。

1 「学びの場」としての図書館

項目	成果	課題と今後の取組の方向性
(1) 資料の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「蔵書規模の適正化」計画により生まれた書架やフロアのスペースの有効活用 ・資料の更新による新鮮度の向上 ・課題解決型サービスのための特定課題に関する資料の収集・提供 ・地域資料の収集・保存とオリジナル資料の作成 ・行政資料のデジタル化(約 600 タイトル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門書、実用書等多様な資料の充実 ・資料の更新による新鮮度の維持・向上 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 蔵書規模の維持 ➢ 資料費の確保 ・地域資料の幅広い収集とデジタルアーカイブの構築 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 郷土博物館、広報課、区政資料室との連携促進 ・バリアフリー資料(マルチメディアデイジー、LL ブック、大活字本等)の充実
(2) 誰もが利用しやすい図書館に	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページ、蔵書検索システムの改善、スマートフォンでの利用カードバーコードの表示 ・IC タグシステム導入の計画化 ・音楽配信サービスの実施 ・障害者施設への団体貸出、読み聞かせ(大塚ろう学校、重症心身障害児通所施設わかば) ・読書補助器具の設置 ・代理人による登録・貸出要件の緩和 	<ul style="list-style-type: none"> ・全館での Wi-Fi 設備等の ICT 機器利用への利便性向上 ・電子書籍の導入・活用の検討 ・高齢者や来館困難者への新たなサービスの検討・実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 通所施設・入所施設へのサービス ➢ 読書バリアフリーの視点での施設やサービスの改善

2 「知の共同体」としての図書館

項目	成果	課題と今後の取組の方向性
(1) レファレンス(調べもの相談)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス専用カウンターの設置や、夏季休業中の児童向け相談カウンター設置、バッジ着用による利用しやすさへの取組 ・パスファインダーの作成、配布 ・有料データベースサービスの充実、国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供、印刷サービスの開始 ・内外の研修参加による職員の能力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービスの効果的な PR による利用促進 ・利用ガイダンスの実施等によるデータベースの利用促進

<p>(2) 講座・講演会・行事の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中での課題解決に役立つ資料の展示、子育て、介護、健康等の講座の実施 ・ワークショップや読書会など、参加者同士が交流できる講座の実施 ・地域在住の専門家による講座や講演会の実施 ・館内で区民や区内団体の作品の展示、朗読や読み聞かせの発表の場を提供 ・区内の団体、専門家との協働による子育て講座、創業・経営相談会等の開催 ・郷土の作家をテーマとした展示、講演会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代を対象とした事業の実施 ・開催時間の見直しやオンライン配信による参加しやすさの向上 ・区立の生涯学習施設や他部署との連携による多様な事業実施
-------------------------	--	--

3 「楽しい交流空間」としての図書館

項目	成果	課題と今後の取組の方向性
<p>(1) ボランティアとの協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとの協働による乳幼児サービス、障害者サービス等の実施 ・ボランティア養成講座や研修の開催 ・ボランティアとの連絡会開催 ・日常的な活動（書架整理、修理）へのボランティア参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの専門性向上への支援 ➤ 講習会等の実施 ・他機関との連携による多様な分野での新たな人材の募集
<p>(2) 快適な読書空間の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって居心地よく親しみやすい雰囲気づくり ・閲覧席の確保、拡大（多目的室の開放、閲覧席の増加） ・安心・安全のための館内見回りの強化 ・施設・設備の改修 ・照明、室温等館内環境の見直し ・館内のサイン、掲示物のユニバーサルデザイン化 	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ、飲食可能スペースの設置 ・閲覧席の整備と多様化する利用目的への対応 ・親子で過ごすスペースの設置 ・老朽化した施設の長寿命化、改築 ・カラーユニバーサルデザインの導入
<p>(3) 子ども読書活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あかちゃんタイム」や乳幼児向けおはなし会等、乳幼児サービスの充実 ・学校図書館との連携推進 ・中高校生世代向けの YA コーナーの充実 ・各種コンクール事業の実施 ・「地域子育てネットワーク事業」への参加や、児童館・保育園・子どもセンター等、近隣施設での児童向け事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高校生世代の図書館利用促進に向けたサービス検討 ・読書が困難な子ども、特別な支援を必要とする子どもへのサービスの充実 ・活動を支えるボランティアの確保と研修・講座の実施

4 取組推進のための基盤整備

項目	成果	課題と今後の取組の方向性
(1) 他機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校司書との連携に基づく学校へのサービスの充実と図書館活動の多様化 ・ 地域の施設との連携事業の増加(ゆうゆう館、地域連絡協議会、子育てネットワーク、産業振興センター等) ・ 区内大学図書館との協定による区民の大学図書館利用及び講演会等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土博物館との連携 ➢ 資料収集・保存 ・ 大学図書館の区民利用を軸とした連携の多様化
(2) 人材育成・研修計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館業務に関する研修の実施 ・ 各図書館でのOJTの実施 ・ 区会計年度職員(司書)の採用 ・ 新たな課題への対応として、認知症サポーター養成講座や障害者サービスについての研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性の高い職員の育成 ➢ 体系的な研修プログラムの整備 ➢ 最新の情報・知識を取得するための研修実施
(3) 広報・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナルキャラクターを使ったPR ・ 各館のおたよりの刷新や図書館ホームページによる積極的な情報発信 ・ 近隣の施設や学校を通じての館外での広報活動(おたより、チラシの配布) ・ SNS(Twitter)による広報(宮前、高井戸、南荻窪) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館ホームページのWebアクセシビリティ向上 ・ 図書館利用や資料についての情報発信 ➢ 動画配信やSNSの活用 ➢ デジタルサイネージの活用

IV 図書館協議会の評価

図書館協議会では、図書館による評価（本報告書 p. 2～11 の評価）を検討し、図書館の活動とその評価が適正なものであることを確認し承認した。ただし、評価部会での検討では、1)過去に指摘した課題が時間を経て改善されたのか、依然として課題となっているのかが読み取れる記述、2)評価指標等の数値が意味するものや数値に対する図書館の認識を理解できる丁寧な説明、といった要望が出された。今後の報告書作成の参考としてほしい。

以下の項目は、図書館の活動がより充実したものとなるよう、委員から寄せられた意見をまとめたものになる。なお、評価部会での協議の上、Ⅲ章については現在図書館協議会で検討中の新しい「サービス基本方針」に反映させることになった。

1 全体的な指摘

- ・各図書館の自己点検・評価と中央図書館の評価にややギャップがあるように思う。お互いの目線のすり合わせが必要である。
- ・利用者は現在のサービス内容の中で満足度を評価しているが、新しい「サービス基本方針」の最終年度である10年後までには評価軸が変わることも想定される。図書館側や協議会のような場で評価軸やあり方について発展的な発想を検討する必要があるのではないか。

2 総括的評価について

(1) 蔵書

- ・蔵書規模の適正化は引き続き取り組むべきである。適正化計画の数値目標の用意や達成できない理由の詳細な分析が必要である。
- ・資料が揃っているという意見が多いが、利用する資料の範囲やレベルは利用によって異なるので、そのニーズの把握が必要である。

(2) 図書館活動

- ・コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、制限をかけすぎない取り組みが功を奏して利用者の増加がみられ、おおむねよいのではないかと。
- ・利用登録者数が減っているということについて言及が少ない。一部の区民に利用が集中しており、未利用層へのアピールの必要性があることを記述した方がよい。

(3) 経費

- ・図書館の資料選択以前に資料費の充実が必要である。資料予算額減は残念である。
- ・(管理コストが含まれる)中央図書館を除くと、築年数と経費が負の相関を示している。リニューアルで利用が増えコストが改善されることをもっと肯定的に評価してもよい。

(4) 利用者満足度調査結果

- ・日ごろからの丁寧な対応によって職員に関する評価が非常に高いものとなっている。
- ・利用している人の満足度は高いが、データを見ると、利用していない人とのギャップがあるので、そこを課題であることをしっかりと示してもいいのではないかと。
- ・レファレンス・行事・情報発信(パソコン利用も含めて)は提供内容について認知が向上しないため、利用を期待しておらず結果として満足度が上がらないのではないかと。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

- ・対応は基本的に適切であった。対応ガイドラインの更新にも適宜対応されたい。

3 評価項目の評価について

(1) 資料の充実

- ・各図書館では、分担収集を積極的に進めている点、ニーズに合ったコーナーづくり・本の収集・資料の充実に力を入れていて、特色が良く出ているように感じた。
- ・単純な資料費の増加は難しいので、区の提示する施策に対応した事業を提案して、その一環として資料の充実を図っていくことも考えていくべきではないか。

(2) 誰もが利用しやすい図書館に

- ・施設の老朽化などで足りない部分を職員の対応やソフトの面で補う努力はされているが、今後さらに施設設備以外で利用者に対するアピールがポイントとなるだろう。
- ・館内表示を利用者からの要望を取り入れて改善している図書館には好印象であった。また、中央図書館で情報共有を図って全体として質を向上させてはどうか。
- ・いくつかの図書館が行っている空いたスペースの有効活用が良いと思った。
- ・永福図書館においては新規利用登録者数が大きく増加しており、複合施設化したことのシナジー効果が表れているように思える。また、従来は館内自習が歓迎されない印象であったが、中央図書館のリニューアルでイメージが一新されたことを言及してもよかった。

(3) レファレンスの充実

- ・レファレンスそのものを知らない利用者もいると思われるため、今後も積極的にレファレンスサービスのアナウンスをしてほしい。一方で、充実のための努力はしていると思うが、利用者が図書館にどこまで期待してもよいのかがわからないという要素もあると考える。
- ・図書館間でサービスに対する力の入れ方に差があるのが気になった。事例共有や、積極的な声掛け、コーナー設置などサービスを丁寧に行っている図書館があったのはよかった。
- ・フォーム形式だけではなく、オンライン対話によるレファレンスも検討すべきである。
- ・本の探し方について、ホームページ等には書いてあるが、積極的に説明していない。請求記号や本の並び方などの初歩的なことをきめ細かく伝えていくことも必要だと思う。
- ・検索エンジンと図書館内の資料を合わせてサポートできるといい。
- ・レファレンスについては、PR も必要であるが、活用しないことでどのような問題があるのか具体例（裏付けを取らないことによる誤報とか）を提示することも必要ではないか。

(4) 講座・講演会・行事の開催

- ・講座や講演会、おはなし会等は、規模は多少縮小してもおおむね再開されており、今後も順調にコロナ禍以前の規模を取り戻していければ良いと思う。一方で、コロナ禍にあったからこそ、図書館のように様々な世代が集まる場所で積極的に開催していく意義がある。
- ・イベント等をきっかけに、さらにそこからどうやって図書館の利用増加につなげていくかを今後も検討していく必要がある。費用も時間もかかって大変であるが、開催するイベントのジャンルを広げていくことで、提供する情報の広さや深さが増すことになると思う。

(5) ボランティアとの協働

- ・コロナ禍での参加の判断は個人によって異なるため、評価が難しい。事業実施回数も前年度比で2倍以上となっはいるが、コロナ禍以前の半分程度である。

- ・杉並区立図書館全体として募集を行う、図書館外においても募集や声掛けをするなど、積極的に新規ボランティアを開拓していく必要がある。
- ・今後も積極的に協働事業をしていくべきである。特に本やおはなしだけでなく、利用者の情報利用を広げられるような領域での協働が必要である。

(6) 快適な読書空間の整備

- ・施設が老朽化している館もありながら、照明や採光、閲覧席の配置などの工夫により居心地を良くするための細かな努力がされている。

(7) 子ども読書活動の推進

- ・図書館だけで進められる活動をもっと増やしても良い。
- ・各館の方向性がそれぞれ異なっているように感じられた。中央図書館としてある程度新しい子ども読書活動推進計画をベースに全体的な方向性を打ち出してよいのではないか。
- ・高井戸図書館が行った「家読」は、社会情勢をとらえた企画で成功したといえ、今後も継続的にやっていくことが望まれる。また、他の図書館でも家読企画の実施があってよい。

(8) 他機関との連携

- ・今後は、範囲はどんどん広がっていくのではないか。広がることで連携の深さも増す。
- ・8月の図書館見学会は好評だったので、今後も定期的を開催することを希望する。
- ・「他機関との具体的連携が分からない」との声もあったため、今後は各図書館の他機関との取り組み内容を情報交換できる場などが設けられると良い。

(9) 人材育成・研修計画

- ・費用がかかるので大変だが、これからは情報提供の範囲の広さと深さが必要になっていくと思うので、力を入れるべきだと思う。

(10) 広報・情報発信

- ・ウェブサイトへのアクセス数は増えているというが、デザインは陳腐化しているので全面的なリニューアルを検討してはどうか。
- ・図書館を普段利用しない区民への情報発信を SNS 等ウェブサイト以外でも実施して引き付ける工夫が必要である。南荻窪図書館が Twitter 上で公開しているマスコットキャラクターの漫画の発信はとても良いと思った。
- ・広報手段に対して年代等でターゲットを絞っていくのはどうか。オンラインでの広報は若年層を、おたよりや広報すぎなみなど紙媒体による広報は高齢層という要領である。

<資料1> 図書館別実績数値

- 杉並区立図書館の実績数値
- 図書館別実績数値
- (参考) 図書サービスコーナー等の実績数値

評価項目	指標とする数値 (単位)
資料の充実	蔵書冊数 (冊)
	購入冊数 (冊)
	蔵書の新鮮度 (%)
	区民1人あたりの蔵書数(杉並区全体) (冊)
誰もが利用しやすい 図書館に	入館者数 (人)
	利用登録者数 (人)
	新規利用登録者数 (人)
	個人貸出人数 (人)
	個人貸出冊数 (冊)
	予約貸出冊数(杉並区全体) (冊)
	※杉並区ではシステム上図書館ごとの予約貸出冊数は算出できない。
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数) (冊)
	区民1人あたり貸出冊数(杉並区全体) (冊)
	団体貸出登録団体数 (団体)
	団体貸出冊数 (冊)
	障害者サービス実施回数(杉並区全体) (回)
音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数 (件)	
レファレンス(調べもの の相談)の充実	レファレンス件数 (件)
	データベース利用回数(杉並区全体) (回)
講座・講演会・行事の 開催	事業実施回数 (回)
	事業参加者数 (人)
ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数 (回)
他機関との連携	学校への支援回数(団体貸出を除く) (回)
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館ホームページ掲載回数、おたより発行回数 (回)
	ホームページアクセス件数(杉並区全体) (件)
経費(コスト)	貸出し1冊あたり経費 (円)
	利用者1人あたり経費 (円)

○ 杉並区立図書館の実績数値

評価項目	指標とする数値	元年度 実績	2年度 実績	3年度 実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	2,118,447	2,092,868	2,088,517	99.8%	
	購入冊数(冊)	83,960	84,709	83,166	98.2%	
	新鮮度(%) <購入冊数÷開架冊数>	—	6.6%	6.4%	-0.2	
	区民1人あたりの蔵書数(冊)	3.68	3.65	3.66	100.2%	
誰もが利用しやすい 図書館に	入館者数(人)	2,324,255	1,875,462	2,688,454	143.3%	
	利用登録者数(人)	190,469	193,397	155,523	80.4%	
	新規利用登録者数(人)	13,553	14,845	17,331	116.7%	
	個人貸出人数(人)	1,051,930	961,559	1,261,419	131.2%	
	個人貸出冊数(冊)	3,722,738	3,456,241	4,510,273	130.5%	
	予約貸出冊数(冊)	1,565,309	1,656,085	1,933,169	116.7%	
	内 訳	自区内処理冊数(冊)	1,557,952	1,648,887	1,924,530	116.7%
		相互協力貸出冊数(冊)※1	7,357	7,198	8,639	120.0%
		区民1人あたり貸出冊数(冊) <年間貸出冊数÷人口>	6.46	6.03	7.90	131.1%
		団体貸出登録団体数(団体)	1,113	1,133	1,120	98.9%
		団体貸出冊数(冊)	186,563	169,576	220,969	130.3%
		障害者サービス実施回数(回)	2,172	1,564	1,436	91.8%
		音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	1,361	—
	レファレンス(調べもの 相談)の充実	レファレンス件数(件)	20,327	27,282	39,506	144.8%
データベース利用回数(回)		2,682	2,329	2,742	117.7%	
講座・講演会・行事の 開催 ※2	事業実施回数(回)	2,186	1,430	2,013	140.8%	
	事業参加者数(回)	26,460	11,854	13,344	112.6%	
ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	648	155	320	206.5%	
他機関との連携	学校への支援回数					
	内 容	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	1,140	1,063	1,214	114.2%
		ブックトーク等(回)	62	9	45	500.0%
		職場体験(回)	42	0	35	—
		図書館見学(回)	35	11	21	190.9%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	701	417	507	121.6%	
	ホームページ年間アクセス件数(件)	31,353,906	32,857,305	38,334,049	116.7%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) <年間経費÷貸出冊数>	435.2	511.7	404.8	79.1%	
	利用者1人あたり経費(円) <年間経費÷入館者数>	697.1	943.1	679.1	72.0%	

※1 都立図書館等の協力により貸出した冊数

※2 「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上

(参考) 図書サービスコーナー等の実績数値

令和4年3月末現在

施設名	貸出登録者数(人)			個人貸出人数(人)			個人貸出冊数(冊)		
	総数	一般	児童	総数	一般	児童	総数	一般	児童
和田図書 サービスコーナー	421	375	46	14,002	12,449	1,553	37,757	31,888	5,869
高円寺駅前図書 サービスコーナー	1,469	1,426	43	45,366	43,482	1,884	106,929	99,901	7,028
桜上水北図書 サービスコーナー	855	822	33	16,079	15,299	780	38,109	35,809	2,300
高井戸地域区民 センター図書室	4,748	4,048	700	47,823	40,864	6,959	158,291	124,975	33,316
計	7,493	6,671	822	123,270	112,094	11,176	341,086	292,573	48,513

○ 図書館別実績数値

評価項目	指標とする数値	中央図書館				永福図書館				
		元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	697,895	696,924	703,038	100.9%	102,857	99,215	102,951	103.8%	
	購入冊数(冊)	8,903	14,385	14,767	102.7%	6,441	5,823	5,725	98.3%	
	新鮮度(%) <購入冊数÷開架冊数>	—	8.5%	8.6%	0.1	7.2%	6.8%	6.0%	-0.8	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数(人)	425	230,660	519,634	225.3%	173,411	101,716	247,129	243.0%	
	利用登録者数(人)	31,960	33,498	27,881	83.2%	13,718	13,362	11,931	89.3%	
	新規利用登録者数(人)	—	4,106	4,497	109.5%	1,061	661	2,158	326.5%	
	個人貸出人数(人)	269	127,214	202,089	158.9%	78,316	53,230	104,952	197.2%	
	個人貸出冊数(冊)	1,096	464,875	708,550	152.4%	283,605	191,133	375,632	196.5%	
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数)(冊)	—	787	1,504	191.1%	788	618	747	120.9%	
	団体貸出登録団体数(団体)	245	285	308	108.1%	91	88	90	102.3%	
	団体貸出冊数(冊)	22,350	40,163	72,136	179.6%	12,791	11,691	12,645	108.2%	
	音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	349	—	—	—	122	—	
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数(件)	48	14,292	22,894	160.2%	929	862	680	78.9%	
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会(回)	—	55	43	78.2%	116	69	76	110.1%
		映画会(一般)(回)	—	0	0	—	0	1	0	0.0%
		映画会(児童)(回)	—	0	2	—	2	2	0	0.0%
		一般向け事業(講演会、講座)(回)	1	2	2	100.0%	2	2	3	150.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(回)	—	3	6	200.0%	4	2	2	100.0%
		展示会(回)	—	23	73	317.4%	81	46	163	354.3%
		その他	—	1	0	0.0%	6	8	7	87.5%
	事業参加者数	おはなし会(人)	—	780	706	90.5%	1,621	1,079	844	78.2%
		映画会(一般)(人)	—	0	0	—	0	15	0	0.0%
		映画会(児童)(人)	—	0	46	—	44	35	0	0.0%
		一般向け事業(講演会、講座)(人)	30	57	57	100.0%	119	72	66	91.7%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(人)	—	170	162	95.3%	219	46	27	58.7%
		その他(人)	—	30	0	0.0%	946	211	89	42.2%
		ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	—	0	0	—	57	30	51
他機関との連携	学校への支援	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	115	179	254	141.9%	86	73	106	145.2%
		ブックトーク等(回)	—	0	0	—	4	2	1	50.0%
		職場体験(回)	—	0	3	—	2	0	3	—
		図書館見学(回)	—	0	0	—	2	0	0	—
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	20	41	65	158.5%	48	33	41	124.2%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) <年間経費÷貸出冊数>	—	1,143.6	791.2	69.2%	341.0	507.0	232.6	45.9%	
	利用者1人あたり経費(円) <年間経費÷入館者数>	—	2,304.9	1,078.9	46.8%	557.7	952.7	353.6	37.1%	

評価項目	指標とする数値	柿木図書館				高円寺図書館				
		元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	111,477	112,718	113,096	100.3%	120,635	120,607	119,760	99.3%	
	購入冊数(冊)	6,424	6,034	5,739	95.1%	6,395	6,152	5,757	93.6%	
	新鮮度(%) <購入冊数÷開架冊数>	6.3%	5.9%	5.6%	-0.3	6.0%	5.8%	5.4%	-0.4	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数(人)	157,237	122,214	138,523	113.3%	236,524	150,459	186,840	124.2%	
	利用登録者数(人)	9,315	9,580	7,617	79.5%	16,523	16,101	12,327	76.6%	
	新規利用登録者数(人)	735	607	556	91.6%	1,720	1,491	1,408	94.4%	
	個人貸出人数(人)	68,526	59,030	67,276	114.0%	67,251	57,013	62,801	110.2%	
	個人貸出冊数(冊)	240,674	207,257	239,054	115.3%	237,292	210,282	228,437	108.6%	
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数)(冊)	475	326	335	102.8%	690	629	695	110.5%	
	団体貸出登録団体数(団体)	57	55	56	101.8%	84	84	83	98.8%	
	団体貸出冊数(冊)	14,958	10,113	14,099	139.4%	21,393	18,810	16,959	90.2%	
	音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	38	—	—	—	103	—	
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数(件)	767	511	827	161.8%	1,666	1,164	1,056	90.7%	
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会(回)	58	36	40	111.1%	60	43	40	93.0%
		映画会(一般)(回)	1	0	2	—	0	0	0	—
		映画会(児童)(回)	1	0	0	—	0	0	0	—
		一般向け事業(講演会、講座)(回)	0	0	0	—	1	0	0	—
		児童向け事業(こども会、人形劇)(回)	1	4	4	100.0%	9	5	6	120.0%
		展示会(回)	24	20	27	135.0%	65	59	66	111.9%
		その他	8	4	2	50.0%	6	1	0	0.0%
	事業参加者数	おはなし会(人)	491	319	387	121.3%	709	493	496	100.6%
		映画会(一般)(人)	24	0	13	—	0	0	0	—
		映画会(児童)(人)	52	0	0	—	0	0	0	—
		一般向け事業(講演会、講座)(人)	0	0	0	—	38	0	0	—
		児童向け事業(こども会、人形劇)(人)	30	159	110	69.2%	247	94	120	127.7%
		その他(人)	949	340	198	58.2%	218	16	0	0.0%
ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	41	0	15	—	55	0	0	—	
他機関との連携	学校への支援	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	15	12	20	166.7%	117	103	114	110.7%
		ブックトーク等(回)	27	4	5	125.0%	2	3	4	133.3%
		職場体験(回)	3	0	0	—	3	0	2	—
		図書館見学(回)	4	1	3	300.0%	2	0	0	—
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	42	37	29	78.4%	44	22	26	118.2%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) <年間経費÷貸出冊数>	583.4	635.3	588.8	92.7%	691.1	731.4	666.4	91.1%	
	利用者1人あたり経費(円) <年間経費÷入館者数>	893.1	1,077.4	1,016.1	94.3%	693.4	1,022.1	814.7	79.7%	

		宮前図書館				成田図書館				
評価項目	指標とする数値	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	120,620	118,443	120,216	101.5%	99,207	89,061	88,443	99.3%	
	購入冊数(冊)	6,567	6,203	5,993	96.6%	6,011	5,482	5,762	105.1%	
	新鮮度(%) <購入冊数÷開架冊数>	6.3%	6.1%	5.8%	-0.3	6.1%	6.2%	6.5%	0.3	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数(人)	220,772	170,743	215,819	126.4%	218,218	111,813	180,246	161.2%	
	利用登録者数(人)	15,016	15,287	12,177	79.7%	11,533	11,618	9,588	82.5%	
	新規利用登録者数(人)	1,221	1,056	1,145	108.4%	1,050	594	875	147.3%	
	個人貸出人数(人)	104,045	91,506	114,062	124.6%	104,947	56,613	85,709	151.4%	
	個人貸出冊数(冊)	380,773	342,542	426,628	124.5%	373,618	198,052	302,963	153.0%	
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数)(冊)	861	702	785	111.8%	670	369	635	172.1%	
	団体貸出登録団体数(団体)	112	109	97	89.0%	87	86	86	100.0%	
	団体貸出冊数(冊)	18,049	16,387	16,260	99.2%	15,600	9,740	14,390	147.7%	
	音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	36	—	—	—	75	—	
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数(件)	1,895	647	1,197	185.0%	1,651	653	1,160	177.6%	
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会(回)	66	6	48	800.0%	76	27	54	200.0%
		映画会(一般)(回)	1	0	0	—	15	8	3	37.5%
		映画会(児童)(回)	2	0	1	—	5	4	1	25.0%
		一般向け事業(講演会、講座)(回)	14	3	4	133.3%	13	6	4	66.7%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(回)	2	1	2	200.0%	8	9	5	55.6%
		展示会(回)	37	32	39	121.9%	55	30	75	250.0%
		その他	18	6	15	250.0%	1	0	0	—
		事業参加者数	おはなし会(人)	1,659	53	444	837.7%	1,037	223	720
	映画会(一般)(人)	36	0	0	—	186	82	15	18.3%	
	映画会(児童)(人)	73	0	10	—	135	46	15	32.6%	
	一般向け事業(講演会、講座)(人)	356	44	47	106.8%	201	48	62	129.2%	
	児童向け事業(こども会、人形劇)(人)	134	40	89	222.5%	369	145	79	54.5%	
	その他(人)	422	354	530	149.7%	150	0	0	—	
	ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	42	0	11	—	46	1	30	3000.0%
他機関との連携	学校への支援	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	181	156	149	95.5%	174	112	139	124.1%
		ブックトーク等(回)	0	0	0	—	1	0	4	—
		職場体験(回)	6	0	3	—	3	0	1	—
		図書館見学(回)	5	3	4	133.3%	3	2	1	50.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	74	28	33	117.9%	41	16	51	318.8%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) <年間経費÷貸出冊数>	255.6	284.6	245.7	86.3%	209.9	395.4	287.1	72.6%	
	利用者1人あたり経費(円) <年間経費÷入館者数>	440.8	570.9	485.7	85.1%	359.4	700.4	482.6	68.9%	

評価項目	指標とする数値	西荻図書館				阿佐谷図書館				
		元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	136,190	136,497	135,705	99.4%	123,492	119,366	113,730	95.3%	
	購入冊数(冊)	6,125	5,572	5,564	99.9%	6,356	5,874	5,733	97.6%	
	新鮮度(%) ＜購入冊数÷開架冊数＞	6.6%	5.9%	6.0%	0.1	7.2%	7.1%	7.2%	0.1	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数(人)	189,174	142,894	165,534	115.8%	239,448	184,559	198,509	107.6%	
	利用登録者数(人)	14,517	14,866	11,768	79.2%	15,165	15,328	11,955	78.0%	
	新規利用登録者数(人)	1,048	980	988	100.8%	1,425	1,121	1,027	91.6%	
	個人貸出人数(人)	92,427	76,414	86,145	112.7%	111,373	84,371	96,697	114.6%	
	個人貸出冊数(冊)	305,227	253,323	284,323	112.2%	375,262	284,638	321,934	113.1%	
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数)(冊)	778	932	978	104.9%	731	603	558	92.5%	
	団体貸出登録団体数(団体)	59	59	40	67.8%	62	57	63	110.5%	
	団体貸出冊数(冊)	10,818	8,374	7,776	92.9%	7,739	5,456	6,697	122.7%	
	音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	48	—	—	—	48	—	
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数(件)	1,067	1,165	1,141	97.9%	1,635	628	1,191	189.6%	
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会(回)	121	78	64	82.1%	81	53	65	122.6%
		映画会(一般)(回)	0	0	0	—	13	11	0	0.0%
		映画会(児童)(回)	1	0	1	—	5	7	0	0.0%
		一般向け事業(講演会、講座)(回)	8	3	3	100.0%	5	1	4	400.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(回)	2	2	2	100.0%	16	16	7	43.8%
		展示会(回)	40	12	44	366.7%	79	2	84	4200.0%
		その他	2	1	1	100.0%	13	6	11	183.3%
	事業参加者数	おはなし会(人)	1,187	619	453	73.2%	1,126	402	558	138.8%
		映画会(一般)(人)	0	0	0	—	133	86	0	0.0%
		映画会(児童)(人)	117	0	21	—	95	94	0	0.0%
		一般向け事業(講演会、講座)(人)	91	38	46	121.1%	162	22	65	295.5%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(人)	129	51	52	102.0%	535	270	257	95.2%
		その他(人)	49	20	15	75.0%	64	53	30	56.6%
ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	107	0	0	—	55	20	52	260.0%	
他機関との連携	学校への支援	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	37	67	73	109.0%	50	62	86	138.7%
		ブックトーク等(回)	0	0	0	—	0	0	5	—
		職場体験(回)	6	0	3	—	4	0	2	—
		図書館見学(回)	2	0	0	—	7	2	2	100.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	56	36	29	80.6%	88	39	29	74.4%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) ＜年間経費÷貸出冊数＞	551.4	623.7	559.6	89.7%	232.5	307.6	291.4	94.7%	
	利用者1人あたり経費(円) ＜年間経費÷入館者数＞	889.7	1,105.7	961.1	86.9%	364.3	474.5	472.6	99.6%	

		南荻窪図書館				下井草図書館				
評価項目	指標とする数値	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	131,631	128,839	126,545	98.2%	115,426	114,513	116,384	101.6%	
	購入冊数(冊)	6,130	5,738	5,598	97.6%	6,159	6,030	5,800	96.2%	
	新鮮度(%) <購入冊数÷開架冊数>	6.6%	6.6%	6.5%	-0.1	7.6%	7.5%	7.5%	0.0	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数(人)	154,255	120,367	149,371	124.1%	214,576	152,119	207,477	136.4%	
	利用登録者数(人)	9,758	10,056	8,350	83.0%	14,072	14,196	10,675	75.2%	
	新規利用登録者数(人)	856	723	731	101.1%	1,205	891	1,020	114.5%	
	個人貸出人数(人)	83,370	71,891	87,088	121.1%	88,421	71,097	91,588	128.8%	
	個人貸出冊数(冊)	303,830	266,050	318,827	119.8%	311,721	255,137	332,075	130.2%	
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数)(冊)	647	585	587	100.3%	411	369	481	130.4%	
	団体貸出登録団体数(団体)	43	44	36	81.8%	47	45	45	100.0%	
	団体貸出冊数(冊)	11,914	9,857	9,194	93.3%	9,205	7,146	7,813	109.3%	
	音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	45	—	—	—	188	—	
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数(件)	2,389	1,900	2,153	113.3%	1,903	848	2,049	241.6%	
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会(回)	54	50	56	112.0%	113	21	60	285.7%
		映画会(一般)(回)	2	2	2	100.0%	1	0	2	—
		映画会(児童)(回)	2	0	0	—	2	0	1	—
		一般向け事業(講演会、講座)(回)	2	5	4	80.0%	3	2	3	150.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(回)	5	4	7	175.0%	10	7	11	157.1%
		展示会(回)	66	70	92	131.4%	75	60	78	130.0%
		その他	4	8	10	125.0%	2	5	5	100.0%
	事業参加者数	おはなし会(人)	647	476	517	108.6%	1,768	174	487	279.9%
		映画会(一般)(人)	18	22	18	81.8%	30	0	21	—
		映画会(児童)(人)	37	0	0	—	75	0	9	—
		一般向け事業(講演会、講座)(人)	58	82	55	67.1%	73	77	52	67.5%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(人)	89	77	153	198.7%	256	79	125	158.2%
		その他(人)	617	305	993	325.6%	198	199	177	88.9%
ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	37	16	54	337.5%	22	0	10	—	
他機関との連携	学校への支援	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	79	83	86	103.6%	38	43	31	72.1%
		ブックトーク等(回)	23	0	24	—	0	0	0	—
		職場体験(回)	2	0	2	—	4	0	3	—
		図書館見学(回)	1	0	0	—	1	0	1	—
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	43	32	44	137.5%	58	42	49	116.7%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) <年間経費÷貸出冊数>	291.1	315.5	262.3	83.1%	305.7	347.9	266.6	76.6%	
	利用者1人あたり経費(円) <年間経費÷入館者数>	573.4	697.3	559.8	80.3%	444.1	583.5	426.8	73.1%	

評価項目	指標とする数値	高井戸図書館				方南図書館				
		元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	121,295	118,275	119,536	101.1%	110,597	109,008	109,255	100.2%	
	購入冊数(冊)	6,167	5,821	5,504	94.6%	6,108	5,668	5,516	97.3%	
	新鮮度(%) ＜購入冊数÷開架冊数＞	6.7%	6.4%	6.0%	-0.4	6.8%	6.4%	6.2%	-0.2	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数(人)	204,496	157,564	187,076	118.7%	134,805	102,770	129,072	125.6%	
	利用登録者数(人)	16,500	16,775	13,251	79.0%	11,436	11,587	9,135	78.8%	
	新規利用登録者数(人)	1,284	964	1,075	111.5%	1,072	933	1,076	115.3%	
	個人貸出人数(人)	102,495	85,071	98,883	116.2%	64,219	57,072	71,991	126.1%	
	個人貸出冊数(冊)	356,259	302,456	347,607	114.9%	242,668	222,525	283,398	127.4%	
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数)(冊)	721	717	678	94.6%	301	348	388	111.5%	
	団体貸出登録団体数(団体)	104	100	102	102.0%	64	66	64	97.0%	
	音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	67	—	—	—	113	—	
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数(件)	2,049	891	1,406	157.8%	2,696	1,514	1,472	97.2%	
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会(回)	125	91	104	114.3%	103	53	72	135.8%
		映画会(一般)(回)	0	0	0	—	0	2	0	0.0%
		映画会(児童)(回)	3	0	1	—	3	3	1	33.3%
		一般向け事業(講演会、講座)(回)	40	12	16	133.3%	9	3	3	100.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(回)	3	3	6	200.0%	6	6	6	100.0%
		展示会(回)	89	61	96	157.4%	96	108	94	87.0%
		その他	3	0	2	—	19	24	17	70.8%
	事業参加者数	おはなし会(人)	1,873	851	970	114.0%	2,059	604	1,081	179.0%
		映画会(一般)(人)	0	0	0	—	0	153	0	0.0%
		映画会(児童)(人)	116	0	14	—	114	43	21	48.8%
		一般向け事業(講演会、講座)(人)	951	150	150	100.0%	234	60	33	55.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(人)	146	53	159	300.0%	221	201	171	85.1%
		その他(人)	187	0	118	—	156	833	284	34.1%
		ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	64	28	19	67.9%	66	31	42
他機関との連携	学校への支援	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	103	83	80	96.4%	74	44	18	40.9%
		ブックトーク等(回)	2	0	0	—	3	0	2	—
		職場体験(回)	4	0	4	—	3	0	6	—
		図書館見学(回)	5	2	8	400.0%	2	1	1	100.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	91	38	48	126.3%	50	28	32	114.3%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) ＜年間経費÷貸出冊数＞	260.0	306.4	286.4	93.5%	350.7	385.1	304.2	79.0%	
	利用者1人あたり経費(円) ＜年間経費÷入館者数＞	453.0	588.2	532.2	90.5%	631.3	833.8	667.9	80.1%	

		今川図書館				
評価項目	指標とする数値	元年度実績	2年度実績	3年度実績	前年度比	
資料の充実	蔵書冊数(冊)	127,125	129,402	119,858	92.6%	
	購入冊数(冊)	6,174	5,927	5,708	96.3%	
	新鮮度(%) <購入冊数÷開架冊数>	5.8%	5.5%	5.5%	0.0	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数(人)	180,914	127,584	163,224	127.9%	
	利用登録者数(人)	10,956	11,143	8,868	79.6%	
	新規利用登録者数(人)	876	718	775	107.9%	
	個人貸出人数(人)	86,271	71,037	92,138	129.7%	
	個人貸出冊数(冊)	310,713	257,971	340,845	132.1%	
	相互協力貸出冊数(都立図書館等の協力により貸出した冊数)(冊)	284	213	268	125.8%	
	団体貸出登録団体数(団体)	58	55	50	90.9%	
	団体貸出冊数(冊)	8,357	7,614	9,461	124.3%	
	音楽配信サービス「ナクソス」ID発行数(件)	—	—	129	100.0%	
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数(件)	1,632	2,207	2,280	103.3%	
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会(回)	83	54	66	122.2%
		映画会(一般)(回)	0	0	5	—
		映画会(児童)(回)	0	0	1	—
		一般向け事業(講演会、講座)(回)	6	4	1	25.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(回)	13	8	14	175.0%
		展示会(回)	84	54	73	135.2%
		その他	15	0	3	—
	事業参加者数	おはなし会(人)	966	546	406	74.4%
		映画会(一般)(人)	0	0	36	—
		映画会(児童)(人)	0	0	7	—
		一般向け事業(講演会、講座)(人)	176	84	17	20.2%
		児童向け事業(こども会、人形劇)(人)	822	179	420	234.6%
		その他(人)	390	0	21	—
		ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数(回)	56	29	36
他機関との連携	学校への支援	調べ学習資料貸出(団体貸出を除く)(回)	71	46	58	126.1%
		ブックトーク等(回)	0	0	0	—
		職場体験(回)	2	0	3	—
		図書館見学(回)	1	0	1	—
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数、おたより発行回数(回)	46	25	31	124.0%	
経費(コスト)	貸出1冊あたり経費(円) <年間経費÷貸出冊数>	287.4	319.0	240.7	75.4%	
	利用者1人あたり経費(円) <年間経費÷入館者数>	493.6	645.0	502.5	77.9%	

○杉並区立図書館の概要(図書館要覧より抜粋)

図書館名	開設年月日 (改築年月日)	延床面積	施設構造	蔵書冊数 (令和4年3月末現在)
中 央	昭和57年10月5日 (令和2年9月5日)	4,397.14m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	703,038冊 <small>(馬橋ふれあい図書 室分3,238冊含む)</small>
永 福	昭和40年8月1日 (令和3年4月2日)	1,170.13m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階 <small>(コミュニティふらつと併設)</small>	102,951冊
柿 木	昭和40年8月1日	1,162.61m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	113,096冊
高円寺	昭和42年11月1日	1,895.28m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階	119,760冊
宮 前	昭和47年11月1日	1,974.02m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階	120,216冊
成 田	昭和60年9月3日	851.38m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	88,443冊
西 荻	平成2年5月5日	1,195.38m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	135,705冊
阿佐谷	平成5年2月11日	1,086.67m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	113,730冊
南荻窪	平成5年11月23日	1,061.24m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	126,545冊
下井草	平成9年5月1日	1,104.30m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	116,384冊
高井戸	平成10年5月1日	1,622.89m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	119,536冊
方 南	平成17年11月3日	815.16m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階 <small>(保育園併設)</small>	109,255冊
今 川	平成19年12月16日	1,096.04m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階 <small>(ゆうゆう館併設)</small>	119,858冊

＜資料2＞項目別自己評価表

「サービス基本方針」に基づき、10項目について各図書館で自己評価を行い、目標と取組結果、課題・改善点についてまとめている。

＜評価する10項目＞

3つの視点と取組の方向	項目
学びの場	1. 資料の充実
	2. 誰もが利用しやすい図書館に
知の共同体	3. レファレンス（調べもの相談）の充実
	4. 講座・講演会・行事の開催
楽しい交流空間	5. ボランティアとの協働
	6. 快適な読書空間の整備
	7. 子ども読書活動の推進
取組推進のための基盤整備	8. 他機関との連携
	9. 人材育成・研修計画
	10. 広報・情報発信

＜自己評価＞

令和3年度当初に設定した目標について取り組んだ実績に対し、項目ごとに各館がA～Dの自己評価を行った。

- A…目標を達成したうえ、高いレベルで取組が実施されていた。
- B…計画どおり実施され、成果があった。
- C…概ね計画どおりだが、一部課題が残った。
- D…計画どおりに行かず、取組みが不十分であった。

○ 資料の充実

	令和3年度の目標	取組結果
中央	「蔵書規模の適正化」計画は適切に行われた。この数を維持しながら、資料の提供と保存を行っていく。	「蔵書規模の適正化」については目標値を達成し、その後資料数を維持しているタイトル数増を図るとともに、利用者のリクエストにもこたえながら資料収集を行った。
永福	蔵書の見直しを行い、来館される幅広い世代の利用者の求める資料収集に努める。	担当収集分野を中心に、利用者より要望のあった分野を含め幅広い蔵書構築を達成した。これまで一般向けとしていた資料から、中高生向け資料を抽出、購入し資料の充実化に努めた。
柿木	計画的に除籍を進める。書籍の購入については、カタログや書店などで積極的に情報を収集する。	臨時休館や保健所等への派遣従事が続いたため、除籍数より購入数が上回ってしまった。購入については、カタログ等を利用したほか、本の展示会で現物を見て選定を行った。
高円寺	新しい資料の収集と除籍とのバランスを見ながら蔵書構成を考慮し、蔵書規模の適正化を図る。	2か月に及ぶ休館があったため、計画どおりの除籍にはいたらなかった。重点課題分野の収集に力を入れ世相を反映したタイムリーな展示を実施したほか、毎月テーマを決めての展示も好評であった。
宮前	買い替えにより蔵書を更新しつつ地域資料コーナーを充実させる。	地域資料コーナーでは継続的に地域の作家の作品を面出しして作家の浸透と利用を図った。
成田	人気のある資料の購入だけでなく、辞書など参考資料の購入も積極的に行う。児童基本図書の蔵書状況や資料状態を確認し、買い替えや新規購入を行う。	辞書・辞典の所蔵状況を確認し、買い替えを行った。児童図書は汚破損状態を確認し、補修・買い替えを積極的に行った。一般書の人気シリーズも買い替えを行った。
西荻	資料の点検・除籍を計画的に進めながら、新規購入を積極的に行い、バランスとれた書架を目指す。	一般書の保存庫の一部は除籍を行った結果、スペースを確保することができた。開架部分は新規購入をしているが、かなり年数の経過した区内一冊本もまだ見受けられる。
阿佐谷	阿佐ヶ谷文士村に関する資料、分担収集担当である大正時代以降の文学資料を積極的に購入するとともに、情報の古くなった資料等の買い替えにも努めていく。	情報の古くなった資料の除籍を進め、蔵書規模適正化の目標値を達成した。合わせて、分担収集（大正時代以降の文学）、阿佐ヶ谷文士に関する資料の買い替えを進めた。
南荻窪	「蔵書規模の適正化」計画に基づき、引続き重点資料の充実、整備に努める。	令和3年度中に6,500冊あまりの除籍を進めた。重点収集である、技術・環境に関する資料を集め、常設展示の充実を図った。
下井草	図書の新規受入れと除籍を計画的に行い、「蔵書規模の適正化」計画における蔵書冊数の維持に努める。	蔵書冊数の維持に努めながら、新刊図書の購入、既存資料の買い替え、除架や除籍を行った。
高井戸	引き続きニーズや蔵書構成のバランスに重点を置きながら除籍を進める。	利用とのバランスを取りながら除籍を進めた。重点課題（子育て支援）や分担収集（外国文学・語学）の購入も進め、魅力ある棚づくりに努めた。
方南	蔵書規模の適正化の除籍結果を参考にした類書の更新を進めるとともに、新鮮な書架づくりを図る。	法律関係や旅行ガイド等、情報更新が必須の資料の買い替えを積極的に行った。
今川	重点課題「世代間交流」を考慮し、また新しい生活様式による図書館需要の変化も鑑みつつ、幅広い分野の資料の充実を図る。	課題解決のテーマ「世代間交流」の常設書架に資料を増やし、幅広い分野にわたる構成で興味をかきたてる工夫をした。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	限られた予算の中で、十分なタイトルと、所蔵数を維持し、利用者の多様な要望に応えるために資料収集を行っていく必要がある。	A
永福	全集を一か所に集約、閉架・準閉架スペースを縮小し、利用者が手に取れる開架スペースを増やす。蔵書適正化数を再達成すべく、利用頻度の少ない資料の移し替え、除籍を行い、新規資料購入による情報更新に努める。	B
柿木	本の除籍が不十分なために、1番上のとりにくい棚まで使用しているため、後回しになりがちな除籍を普段の仕事の中で積極的に行い、適正な蔵書数に近づける必要がある。	B
高円寺	除籍を進めた結果、一般書架に空きが目立っているため、適正な蔵書規模を見極め新たな資料収集と除籍を行っていく。	B
宮前	施設の移転計画を見据えて蔵書規模を抑える。地域に関する資料の収集を進めて、地域資料コーナーを充実させ地域への理解と利用を促進する。	B
成田	分担収集である芸術関連資料は補修が必要かなどの状態を確認したが、整理し積極的に収集するまでいかなかった。児童書については、図鑑や辞書などの所蔵状況の把握にとどまった。	A
西荻	児童開架、保存庫児童図書の除籍について、ほとんど進んでいない状態になっているので、利用の少ない図書、修理が難しい図書、価値が下がった図書を中心に除籍を進め、区内一冊本については、中央に保管替えを行う。	B
阿佐谷	達成した蔵書規模適正化の目標値を維持するとともに、除籍でできた空間の活用と類書の補充が引き続きの課題となった。	A
南荻窪	除籍の目標値に近づけること、引続き重点資料の充実と整備に務める。	B
下井草	「蔵書規模の適正化」計画における蔵書規模を維持するとともに、蔵書構成や鮮度を意識して選書を行う。	B
高井戸	引き続き、貸出冊数やリクエスト件数を考慮し棚のバランスを取りながら資料管理を行う。高井戸図書館の特色の一つである重点課題（子育て支援）のコーナーをよりわかりやすくリニューアルをする。	B
方南	分担収集資料の収集に加え、IT分野等の情報更新の特に必要な資料の入替え、また基本図書の買い替えを行う。	A
今川	実施が遅れていた蔵書規模の適正化を推進し、児童向け資料の除籍に力を入れ、除籍した資料は常設のリサイクルコーナーや、リサイクルイベントで区民に提供した。引き続き蔵書の見直しを行い、令和4年度末に当初の目標達成を目指す。	A

○ 誰もが利用しやすい図書館に

	令和3年度の目標	取組結果
中央	排架や表示など、利用者の方がわかりやすいよう工夫をしながら利用しやすい図書館を目指す。	新規の利用者を獲得し、要望を取り入れながら、今までの利用していた方にも、変更点や新しい利用方法など、表示や案内を行った。
永福	掲示・館内表示を充実させる。利用者からの要望を取り入れ、定期的に改善を行う。	利用者からの要望を取り入れ、館内掲示、書架棚の配置替えの改善を行った。
柿木	書架の配列が分かりにくい箇所を改善し、目につきやすい表示を設置して、わかりやすくする。	一般、児童とも、書架配列の改善ができなかった。YAについては新しい本、YA世代に読まれる本に入れ替え、受験や仕事に関する本はまとめて配架した。また、サインやレイアウト、敷布等のディスプレイを一新した。
高円寺	除籍に合わせ、書架見出しの更新と利用しやすい書架配置の見直しを行う。	児童、一般ともに書架見出しを更新することができた。除籍に伴い空いたスペースを利用し、おすすめの図書を表紙が見えるように配架するなど、図書が手に取りやすくなるよう工夫した。
宮前	館内掲示を整理して利便性を向上させる。	感染防止対策やワクチン情報について積極的に掲示して利用者への周知に努めた。また読書室に透明なパーティションを設置するなど防犯面と感染防止対策の両立に努めた。
成田	痛みが著しい図書の修理・除籍を進める。表面の汚れを拭き、手に取りやすい資料を目指す。利用者の動線を考慮した資料展示場所の再検討を行う。資料の配置を再検討する。	資料1冊ずつ汚破損状態を確認し、積極的に修理、除籍、買い替えを行った。資料表面を電解水でふき取り、汚れを除去し、手に取りやすい資料とした。児童書架・特集・スポットの展示棚を移動し、利用者の動線を意識した配置を行った。一般書の並べ替えを行った。
西荻	利用者の目線に立って、わかりやすく、使いやすい館内サイン、掲示を継続して見直す。	コロナ禍に伴うソーシャルディスタンス、手指消毒等の案内についてわかりやすい表示や表現の見直しを行った。また、書架の最上段については、なるべく配架しないよう書架の調整を行った。
阿佐谷	利用者が求めている資料を探しやすくするよう書架の整理や見出しの変更といった工夫を行っていく。	就労支援(重点収集)・こどもぶんしむら(分担収集)・シリーズ絵本・子育て支援コーナーなどを新設し、YAコーナー・展示棚などを整理し、資料を探しやすく利用しやすい書架づくりを進めた。
南荻窪	ユニバーサルデザインとバリアフリーの観点を持ち、過ごしやすい館内配置と表示に取り組む。	館内サインを適宜見直し、利便性の向上につなげた。棚移動による新しい書架図の作成を行った。
下井草	ユニバーサルデザインを意識した、誰もが見やすく分かりやすい館内案内に更新する。重点目標として、児童フロアの書架サインの更新を行う。	ユニバーサルデザインを採用した書架見出し及び書架案内図について、児童フロアを重点に作成・掲示し、利用しやすい書架づくりを行った。
高井戸	図書館利用における社会的障壁について研修を行い、合理的配慮に努める。	LLブック(やさしく読める本)の積極的な収集や車椅子の設置をした。また読書バリアフリー法やディスレクシア(読み書き障害)についての研修などを行った。
方南	蔵書規模の適正化にて、空いた空間を活用した利用しやすい書架づくりを進める。また、NDC10版移行による請求記号変更を継続して進める。	NDC10版移行による請求記号変更を継続すると共に、案内掲示板の設置や、除菌機の導入とその案内等を行った。
今川	館内掲示やおたよりなど、既存の形式にとらわれず、利用者の幅広いニーズに合わせた工夫を行う。	多様な注意喚起の貼り紙をまとめて枚数を減らし、落ち着いた雰囲気でもリラックスできる館内状況を目指した。特に児童コーナーは装飾を明るい配色にして、ワクワクする楽しい雰囲気を心掛けた。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	幼児から高齢者まで、またハンディキャップがある方など、様々な方が、必要なサービスを受けることができるよう考えていく必要がある。利用者の方が利用しやすい図書館を目指していく。	B
永福	引き続き利用者からの要望を取り入れながら、書架の見出しや館内表示を見直すなどの改善を実施していく。	B
柿木	児童図書コーナーの展示スペースが手狭なため、改善する必要がある。また、前年度やり残した書架の配列替えを実施する。	B
高円寺	書架整理が十分とは言えず、図書資料を探しにくい場面が見受けられた。正しい配架となるよう書架整理に力を入れていく。	B
宮前	感染症の拡大を防ぐよう対策しつつ、身近で利用しやすい図書館の雰囲気を作り、利用者への情報提供や座席数の確保に努める。ピクトグラムや記号を活用し、館内掲示を整理して工夫する。	B
成田	汚破損状態のひどい資料が目立ったため資料の補修作業に時間を費やした。書架の著者見出しの見直しが検討段階でとどまった。	A
西荻	コロナ禍対策として、安心して利用できるように館内サイン、案内図の見直しを継続して進める。また、閲覧席数、利用時間の見直しも検討する。	B
阿佐谷	新設したコーナーや棚に合わせて、案内や表示の更新を進める。	A
南荻窪	掲示物の刷新を図り、求める資料にたどり着きやすい書架づくりを念頭に取り組む。	A
下井草	書架以外の案内サインや注意掲示について見直し、見やすくわかりやすいものに更新する。	A
高井戸	LL ブック(やさしく読める本)は、出版点数が少ないので、留意しながら収集に努め、新設する読書バリアフリーコーナーの拡充を図る。	A
方南	引き続き、NDC10 版移行による請求記号変更を継続する。また、文庫棚の著者の見出しをより分かりやすく表示する。	A
今川	感染防止対策や安全性に配慮しつつ、来館しやすい環境を整える。	A

○ レファレンス（調べもの相談）の充実

	令和3年度の目標	取組結果
中央	専門知識を活用し、図書館として利用者の方の要望に応えることができるレファレンスサービスを行っていく。また多くの方に利用してもらえよう周知を図る。	リニューアルオープン後、新たに1階に設けられたレファレンスカウンターは、司書職員が従事しており、調べもの相談の利用者の対応を行っている。またホームページからの Web レファレンス回答も前年比増となった。
永福	レファレンス事例を生かした研修を行い、職員全員のレベルアップを図る。利用者が相談しやすい雰囲気づくりに努める。	児童向けに夏休み宿題のレファレンスイベントを実施し、レファレンス利用の促進を行った。また、実例をもとにスタッフに研修を行い、レファレンス能力向上をはかった。
柿木	事例共有を実施する。また、本を探している人や困っている人への声かけを心がける。	窓口での相談だけでなく、電話による問い合わせも多くあり、参考になる事例は日誌に記録を残すことで事例を共有化した。
高円寺	職場会などを活用し、レファレンス研修の実施や実例の情報共有を図り、職員のスキルアップにつなげる。	簡単な資料検索など、簡易な相談にはその都度対応できたが、年間を通じてレファレンス件数が少なかった。実例を通しての研修の実施、スキルアップにはつながらなかった。
宮前	地域資料コーナーを整備しつつ職員のレファレンス技術向上を図る。	地域資料コーナーの整備を継続しつつ、各職員が選択したテーマに基づくリモート研修を受講するなど、レファレンスを含む図書館員としての技術向上を図った。
成田	レファレンス＝調べもの相談であることの周知、声のかけやすい雰囲気作りのため、バッジの着用を検討する。レファレンスに役立つ資料の所蔵状況を調べ、不足している資料を購入する。	レファレンスバッジを着用し、声のかけやすい雰囲気作りを心掛けた。様々な事例に対応できるようレファレンス内容を毎月のミーティング内において職員間で共有した。統計などレファレンスに役立つ資料の所蔵状況を確認し、買い替えを行った。
西荻	レファレンス能力を向上させるために、積極的に研修参加を促し、館内研修も行う。	中央図書館主催のレファレンス研修に職員が参加し、個々のスキルアップにつながった。研修参加者が他の職員に情報共有を図った。
阿佐谷	館内整理日を利用してレファレンス研修を実施し、職員の技術向上を図る。	レファレンス体制を見直し、館内整理日等で研修を行い、職員の技術向上とレファレンス手順の統一化を図った。
南荻窪	eラーニングを中心に、レファレンス研修を充実させ、全体のレベルアップにつなげる。	eラーニング中心の研修を受講した職員が、研修内容を他の職員と情報共有を図ることにより、全体のレベルアップにつながった。
下井草	事典・辞書等の参考図書の新版や新刊を購入するとともに、令和2年度に新設した参考図書コーナーの利用しやすさの向上を図る。	児童用の百科事典や図鑑を中心に、参考図書の新版・新刊を約50冊購入した。児童フロアの閲覧席の近くに参考図書コーナーを設置し、見やすい看板・書架見出しを掲示した。
高井戸	図書館のインターネット閲覧用パソコンで利用できるデータベースについて、研修を行い利用促進に繋げる。	データベース活用研修を行い、レファレンスの際に利用者にスムーズに案内することができるように努めた。動画研修なども活用し、一人ひとりが能力向上を目指した。
方南	レファレンス資料及び参考資料の更新を進めるとともに、調べ物相談の環境を整える。	参考図書コーナーの書棚の刷新を行った。学校の夏休み中には、児童レファレンスカウンターを設け、相談しやすい環境づくりを図った。
今川	レファレンス研修を定期的実施し、スタッフ間の情報共有を促進する事でスキルの底上げを図る。	都立図書館や中央図書館のレファレンス研修に参加し、スタッフ全員で情報共有を行った。資料は常に手に取れる所に設置し、復習に役立てた。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	カウンター業務、Web レファレンス等の現行のサービスを継続して行っていく。今後も利用者の要望に応えられるよう、職員のレファレンス技術の向上のための研修を行うことや、レファレンスの内容についてデータ化することにより、担当職員の情報共有を図り、一層のサービス向上に努めていく。	A
永福	利用者への声かけに積極的に取り組み、カウンター以外においてもレファレンス利用の促進に努める。	B
柿木	図書館司書だけでなく、全員で取り組む。また、事例について共有する。	B
高円寺	レファレンスサービス自体の PR 不足が課題となっている。利用促進につながる工夫と職員のスキルアップが必要である。	B
宮前	地域資料の収集と整理を進めるなど利用しやすい地域資料コーナーを目指す。レファレンスの事例整理や研修を通じて、職員のレファレンス技術向上を図る。	B
成田	レファレンス件数、資料相談件数を増やすため、声のかけやすい雰囲気作りがより必要であった。レファレンス事例を共有したが、活用されているか確認を兼ねた研修を行う。	B
西荻	引き続き職員にレファレンス研修参加を積極的に促す。また、窓口でレファレンスを受けた場合には、メモを残し職場会等で報告し、内容を職員にフィードバックし、全体のレベルアップにつなげる。	B
阿佐谷	レファレンスを受けた際に資料が古かったり、揃っていないことがあり、取り寄せて対応することがあったため、レファレンス資料及び参考資料の更新を進める必要がある。	B
南荻窪	他館との交流で、様々なレファレンス対応を共有し、個人のスキルアップと、館全体のレベルアップに取組み、レファレンス・ツールの知識を各職員が把握し、速やかに対応できるよう取組む。	B
下井草	参考図書を示す、わかりやすい「別置ラベル」を検討する。調べものに必要な事典・辞書等が揃えられているか意識して新刊受入及び除籍を行う。	A
高井戸	研修で受動的に学ぶだけではなく、主体的にテーマを決めて実際にデータベースを使って調べるアクティブラーニング形式で、より専門的なレファレンスサービスを提供できるよう努める。	A
方南	高額参考図書も含め、計画的に参考図書コーナーの構築を図ることができるよう、情報収集に努める。	A
今川	館内での研修をカウンター業務の基本動作の見直しや強化を優先した為、レファレンス研修は外部研修のみとなった。令和4年度にレファレンスの情報共有を行い、館内でレファレンス研修を実施する。	C

○ 講座・講演・行事の開催

	令和3年度の目標	取組結果
中央	人が集まる事業は、新型コロナウイルス感染予防対策の他、来館が困難だった方も自宅にしながら講演会に参加できるオンライン開催を検討、導入する。	講演会では講演者からオンラインの承諾はとれず実施には至らなかったが、音訳講習会ではオンライン開催の回を設けることができた。
永福	世代に応じた講演会等の行事を実施する。	コロナ禍のためおはなし会中止、参加人数減など規模縮小となった。行事開催時には毎回アンケートを実施し、感想などを集め、次に開催した行事に反映した。
柿木	新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら、工夫して事業を実施する。また、事業後にアンケートをとって、今後の参考にする。	参加者への手指消毒、マスク着用のお願いのほか、換気、人との距離に注意して事業を行った。また、重点課題「健康」のコーナーを入口ロビーに設置し、特に休館中、窓口のみの期間によく手にとられ、借りられた。
高円寺	一般、児童とバランスを取りながら、図書館利用に繋がる事業を企画し、実施する。	科学工作会、人形劇、おはなし会など図書資料と関連づけながら、感染防止対策を行い児童や親子対象の行事はできる限り実施したが、一般のみを対象とする事業は実施できなかった。
宮前	感染防止対策を徹底しながら実施方法を工夫して可能な限り講座を開催する。	感染防止対策を講じつつ、徐々におはなし会、あかちゃんおはなし会、講座などを再開した。
成田	様々な視点から図書館利用につながるような事業実施を目指す。昨年度まで行っていた好評な事業の継続だけでなく、新規事業を行う。	コロナ禍でも対策を講じながら様々な公演・講座を積極的に行った。児童向けは幼児だけでなく、小学生向け工作会、おはなし会も行った。大人向け講座で好評だった折り紙教室を継続するとともに、朗読会・紙漉き体験会など新規行事も行った。
西荻	コロナ感染症対策を徹底した上で、地域団体と連携をとり、参加者が満足のいく講座、講演会を実施する。	講演会「西荻アカデミア」2回開催のところ、図書館休館により、1回のみで開催となったが、好評であった。また、杉並江戸落語研究会の寄席、絵本作家児童講演会を開催した。
阿佐谷	利用者が図書館に対して更なる関心を持つことに繋がるイベントを行う。	阿佐ヶ谷文士村関連事業として、文士や杉並区ゆかりの作家の朗読会を実施し、文豪の暖簾やイラストを設置した。
南荻窪	新規講師の発掘と、小学生の来館を促すような行事を実施する。	近隣在住の講師による講座・イベントは人気イベントとなっており、また、小学生向けの新たなイベントも実施した。
下井草	新型コロナウイルス感染防止対策に留意し、地域住民に向けた行事や、専門家による講座、講演会を幅広く企画し開催する。	感染防止対策を行った上で、各種行事を開催した。専門家による講座・講演会は「翻訳家を招いた文学講演会」「大人の塗り絵講座」「子育て世代のライフプラン講座」「プログラミング体験」を開催した。
高井戸	安心して行事に参加できるよう、感染防止対策をとりつつ、積極的に講座を開催する。	あかちゃんおはなし会やおはなし会は、人数制限など感染防止対策をしつつ、実施することができた。館外で実施する俳句講座等、感染防止対策を意識した講座も実施できた。
方南	感染防止対策を遵守し、コロナ禍でも安心して参加できる事業を企画し、実施する。	各種行事やおはなし会開催時には、受付にて手の消毒や検温にご協力いただく等、でき得る限りの感染防止対策を行った。
今川	少人数・短時間制など感染防止対策を重視しながら、可能な限り行事を実施する。工作会キットの配布のように、集会・滞在型でない企画を考える。	ぬりえや七夕飾りのキット、テーマ別本のおたのしみ袋など、家に持ち帰って楽しめる企画を実施した。また工作会や映画会、講座や落語、演奏会など、集会型のイベントも十分な感染防止対策を取りながら年間を通して行った。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	講演者や講師が安心してオンライン開催ができるよう、安全性について検証を行う。オンライン開催が可能な事業は積極的に実施する。また、オンライン開催側の図書館がアプリケーションをスムーズに活用できるように習得する。	B
永福	事前申し込みが満員でかつ、参加利用者のアンケート結果で評価を受けた「高齢者向け講座」・「法律講座」は継続する。アンケートでの要望を取り入れた新規行事を企画し、コロナ感染等にも十分注意しながら開催する。	B
柿木	令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で、事業の計画が立てづらく、一般講演会を行えなかったため、令和4年度は開催する。	B
高円寺	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年に比較し行事实施が難しかった。新たな講座などを検討、実施していく。	B
宮前	感染防止対策を講じつつ行事を実施する。五十周年記念行事等を開催する。講座の目的や感染症の状況により動画中継など実施方法を工夫し、区民との交流を深め図書館の利用を促進する。	B
成田	感染症対策を行いながらの事業実施のため、参加人数の制限があり、十分な人数に参加いただけなかった。事業実施時に記入をお願いしているアンケートを基に今後の行事などを考えていく。	A
西荻	各講演会については、参加者の満足度は概ね良好であるが、引き続き充実した講演会になるよう内容等の精査を行う。	A
阿佐谷	恒例行事を継続するとともに、利用者のニーズに合わせて新規事業を企画し、イベントを拡充していく。	A
南荻窪	恒例となった「カブトムシ・クワガタをみてみよう!」、入谷いずみ先生の短歌講演会、善福寺川に関連する環境講演会のほかに、新たな講演会を実施する。	A
下井草	感染防止対策を徹底しながらも、可能な範囲で開催できる行事を検討し開催する。	B
高井戸	引き続き、講座に参加される方が安心して楽しめるように、感染防止対策をとりつつ、人気の講座は継続して行い、新たな行事も取り入れ、実施する。	A
方南	令和3年度開催し特に好評を得た「大人の工作会」、「流し漉き」、「親子でワイワイリトミック」、「えいごでたのしむマザーグース」については、令和4年度も継続して実施する。	A
今川	高齢者施設ゆうゆう今川館との区内唯一の併設の為、高齢者向けの企画はテーマが重ならないよう工夫が必要となる。図書館ならではの特色ある講座やイベントを考える。	A

○ボランティアとの協働

	令和3年度の目標	取組結果
中央	新型コロナウイルス感染症防止対策等をとりながら、ボランティアが安全に活動できるよう支援する。	ボランティアが高齢化していることから、感染症防止対策に心配を抱く人が多く、事業にはボランティアの意思により参加してもらった。
永福	ボランティア団体とともに、おはなし会・行事を協働する。	おはなし会、特別おはなし会、おはなし会後にミニ工作会をボランティアと協働で実施した。各所に働きかけ、ボランティアを増やした。
柿木	既存ボランティアとの協働関係を強化しつつ、新規ボランティアの受け入れを進める。	新型コロナウイルスの影響で、活動を自主規制されるボランティアの方もいたが、声かけにより新規ボランティアも受け入れた。
高円寺	おはなし会、図書展示等、ボランティア団体との協働事業を企画し実施する。	新型コロナウイルス感染症の影響で、時間短縮や人数制限はしたものの、ボランティアの協力を得ておはなし会や図書展示など実施することができた。
宮前	既存ボランティアと連携しながら新規ボランティアを採用して事業の充実を図る。	感染防止対策を講じつつ、徐々におはなし会、あかちゃんおはなし会などを再開し、ボランティアと連携して実施した。一方で新規ボランティアの募集は感染症の状況をみて見送った。
成田	おはなし会ボランティアと連絡や意見交換を行い、連携した事業実施を目指す。配架ボランティアの意見を伺い、配架の困難な箇所を割り出す。	登録ボランティア全員とコロナ禍でのおはなし会の実施について確認を行った。要望等を伺い、参加の見合わせ等に対応した。配架ボランティアの意見により、高い位置にある資料を移動させ、見直しの参考とした。
西荻	ボランティアと協働して、児童向けの事業を中心に実施する。	定例のおはなし会、赤ちゃんタイム、こどもの広場、夏休みのお話スペシャルを実施した。1月中旬から2か月間の図書館休館により、実施予定であった「おりがみでつくろう」、パネルシアターは残念ながら中止となった。
阿佐谷	読み聞かせボランティアによるおはなし会や朗読会などを開催する。	感染症対策を講じたうえで、協働事業として「こわ〜いおはなし会」「スペシャルおはなし会」などを開催した。また、大人向け事業として「大人のための朗読と語りの会」を開催した。
南荻窪	ボランティアとの協働による、「あかちゃんおはなし会」の回数増の検討や、新しいイベントに向けての話し合いの場を増やす。	新型コロナウイルス感染防止対策を講じて取組み、「おはなし会」「あかちゃんおはなし会」について協働による開催を継続した。回数を増やし、一回の参加人数を絞ることで、利用者への配慮を最優先にした。
下井草	ボランティアグループとの良好な関係を継続し、協働事業を実施するとともに、情報交換を行う。	読み聞かせボランティアグループによるおはなし会を再開し、感染防止対策を行いながら実施した。夏休みやクリスマス時期にスペシャルおはなし会を開催した。
高井戸	活動の場やボランティア同士の情報交換の場を提供し、活動支援をする。	ボランティアグループが一堂に会して連絡会をすることはできなかったが、個々のボランティアグループとコミュニケーションを密に取り、図書館が情報共有の橋渡し役になることができた。
方南	ボランティア連絡会やおはなし会などの事業連携と情報共有を通して、協力体制を整え、良好な関係を継続する。	感染防止対策のため、ボランティア連絡会は見送られたが、連絡を綿密に取り合うことで、より良好な連携を築くことが出来た。
今川	少なくなった協働の機会を最大限に生かしながら、意見交換を密に行い連携の機会を作る。	定例のおはなし会とあかちゃんおはなし会を4つのボランティア団体と協働で行った。また年間3回、ボランティア団体との共催でグループ読書会を実施した。各回毎にテーマが異なり、一般の方にもご参加頂き、白熱した内容となった。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	ボランティア活動に安心して参加できるよう、感染症防止対策を十分にとり、安全を確保することに努める。今後は、若年層のボランティアの育成に取り組む。	B
永福	ミニ工作会実施時では、ボランティアの方から難易度につきご意見を頂いた。次年度は、参加年齢に留意しながら、より参加者が楽しめる行事開催を目指す。	A
柿木	新型コロナウイルスの状況が落ち着くようであれば、ボランティアをさらに受け入れ、協働事業を増やしていく。	B
高円寺	各団体と円滑なコミュニケーションを図り、利用者からの評価などの情報を共有しながら連携を深めていく。	B
宮前	ボランティアと連携しながら事業を実施する。感染症の状況と必要性に応じて新規ボランティアを募集して事業の充実を図る。	B
成田	より活発に意見交換ができる場があるとよいが、コロナ禍においての会議開催について検討が必要である。それぞれのボランティアがおはなし会を行いやすいよう、サポートしていく。	B
西荻	コロナ禍のため、図書館の休館期間もあり、ボランティア団体との情報交換が十分ではなかったため、ボランティアからの要望・意見を聞きながら事業を進める。	B
阿佐谷	ボランティアと連絡が取れないことがあった。ボランティア連絡会や事前打合せなどを通して、情報共有を行い、連絡体制を整えていく。	B
南荻窪	おはなし会では今まで通りボランティアとの協働を継続し、さらに情報交換をしながら密に協力を継続していく。	A
下井草	ボランティアグループと情報交換を行い、良好な関係を継続する。おはなし会は感染予防のために制限はあるものの、可能な範囲で実施できることを検討の上、実施する。	B
高井戸	ボランティアグループとの連絡会を開き、情報交換の場をつくる。また協働事業を企画し、お互いの技術向上を図る。	B
方南	定期的なボランティア連絡会を再開し、新しい協働事業の提案事項などを話し合う。	B
今川	おはなし会やグループ読書会を協働で実施しているが、それぞれの担当者以外の職員の関わりが少ない。令和4年度は担当者以外のスタッフもグループ読書会に参加する等、積極的に交わりを増やす。	A

○ 快適な読書空間の整備

	令和3年度の目標	取組結果
中央	来館者が快適で安心・安全に施設を利用できるよう、適切な施設維持管理に努める。特に感染症対策については、引き続き基本対策を徹底していく。また、施設に関する要望等についても迅速・適切に対応していく。	「本の広場」への出入口部に、安全対策のための段差解消用スロープを設置した。また、感染症対策のため日常業務における館内消毒清掃を適切に実施するとともに、快適な読書環境維持のための衛生管理を行った。
永福	新しい施設の充実した設備を生かし、空調・採光の調整を行い、読書環境の充実を図る。	季節により温度・湿度調節、ブラインドの採光調節を行い、読書環境を整備した。雨天時には出入口や階段の汚れ、水濡れをふき取り安全面を向上を図った。
柿木	館内巡回を行い、利用者の安全に注意すると共に、快適な読書空間になるよう配慮する。掲示板と掲示物の見直しを図る。	館内巡回を随時行い、照明や温度、換気についても配慮し、快適な環境の維持に努めた。館内の掲示物を新しいものに貼りかえ、入口掲示板の改修工事を行った。
高円寺	施設の不具合等は迅速な修繕を行う等、館内の安全及び清潔を保ち、より快適な読書空間を提供する。	老朽化による危険な個所の修繕に迅速に対応することができた。空きスペースに新たに椅子を配置するなど、ゆっくりと読書ができるよう配慮した。児童書のキャラクターのぬいぐるみを展示し、楽しくくつろいで読書ができる空間を演出できた。
宮前	読書環境の整備を進めて滞在型図書館として利用を促進する。	読書室の一部に透明なパーティションを設置して防犯と感染症拡大防止を図った。中2階では観葉植物や季節の花や鈴虫、メダカの水槽など、視覚や香り、音で落ち着いた読書空間の演出を図った。
成田	館内巡回を定期的に行い、不具合の早期発見を目指す。より快適な空間にすべく、実施できる整備内容を検討する。	蚊の侵入を防ぐため網戸を設置し、換気を行いながら運営した。児童お話の小部屋の壁紙を張り替え、空間を明るくすることが出来た。
西荻	館内の巡回強化を図り、安心安全な環境を整える。また、展示コーナーの充実を図る。	安心安全に図書館を利用してもらうために定期的な巡回を行った。また、入口展示コーナーでは、写真や記事の内容の充実を図り、利用者からの評判が良かった。
阿佐谷	備品の配置やレイアウト変更を行い、利用者が快適に読書を楽しめるような環境作りに努める。	経年劣化による器具不良が発生している蛍光灯を修繕し、LEDにした。書架横の閲覧席を明るい場所へ移動した。また、冷暖房の効きが弱い箇所に冷風機やヒーターを設置するなどして、読書空間の整備を進めた。
南荻窪	「蔵書規模の適正化」による書架の撤去により閲覧席ソファの増設を実施し、居心地の良い空間づくりを目指す。	書架の撤去により、空いたスペースに6人掛け用の閲覧席テーブルと個性的なソファを設置し、今まで以上に居心地の良い空間づくりを実施した。
下井草	適切な施設維持管理を行うとともに、館内装飾・演出を行うことで、快適で楽しい読書空間の整備に努める。	適切な施設維持管理、季節を感じる飾り付けを行った。感染防止対策として導入したサーマルカメラや空気清浄機、閲覧席用の飛沫防止板の維持管理を行った。
高井戸	館内の消毒や換気等の感染防止対策を行い、利用者が安心して来館できるようにする。	閲覧席を少なくしている分は、多目的ホールを臨時閲覧席として開放し、なるべく多くの方が、安心して利用できる環境を保ちながら運用ができた。
方南	いつでも安心して利用できる読書空間の整備を実施するとともに、多目的室の開放により閲覧席の拡充と混雑緩和を行い、快適な読書空間の提供を図る。	繁忙時の多目的室の閲覧席開放を積極的に行った。また、周りの音や刺激に対して敏感な方が安心してご利用いただけるよう、対面朗読室を予約制で利用可能とした。
今川	感染防止対策の徹底と同時に、備品や注意喚起の掲示が物々しい雰囲気にならないように自然な表示を目指す。	感染防止対策の多種多様な注意喚起の貼紙の内容をまとめて枚数を減らし、落ち着いた雰囲気ですらリラックスできる館内環境を心がけた。特に児童コーナーは装飾を明るい配色にして、楽しい雰囲気を演出した。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	引き続き施設の利用状況等について現状把握をするとともに、利用者の声に迅速に対応し改善等が必要な個所がないか確認し、より良い施設運営に努める。 閲覧席の利用について、定期的な巡回による安全確認を強化するとともに、快適に利用をしていただくため、施設利用に際してのマナー理解について周知していく。	A
永福	駐輪場での騒音に対して近隣より苦情があり注意文書を掲示した。強風時は速やかな三角コーン撤去、混雑時は駐輪場整理が必要であった。今後も定期的に、必要時には速やかに確認、対応を行う。	B
柿木	引き続き、館内巡回を行い、利用者の安全に注意する。緑豊かな屋外スペースが読書空間として活用できるか検討する。	B
高円寺	引き続き館内の清潔と安全を保ち、安心して読書を楽しめる居場所を提供していく。	A
宮前	3階の読書室、中2階の踊り場という宮前図書館の特徴を活かして憩いの場を演出するとともに、資料の利用へつながるよう工夫を凝らす。	A
成田	空調機のエラー表示が頻発しているため対応が必要である。日常巡回にて不具合の早期発見を今後も続ける。座席数の確保が難しい施設であるが工夫していく。	B
西荻	経年劣化の進んでいる箇所を重点的に日々の館内巡回、点検を行う。点検後に改善箇所が見つかった場合には、早急に修繕を行う。	B
阿佐谷	空調機の2台ある室外機のうち1台が故障しているため、残りの1台に負荷がかかっており、積雪により不具合が発生し、暖房が使用できない日があった。また、器具不良が発生している蛍光灯が複数個所残っているため、合わせて、修繕を進めていく必要がある。	B
南荻窪	閲覧机とソファを増設したが、新型コロナウイルス感染症の影響で、席を間引きしているため、戻すタイミングを見極める。	A
下井草	安全安心、快適な読書空間の整備のために、施設の維持管理を継続して行う。館内装飾を通じて、今後も明るい雰囲気づくりを継続していく。	A
高井戸	空調や壁、照明など経年の劣化が目立つ部分もあるので、修繕や改修、装飾など、対応を進めていく。快適な空間づくりに努めつつ、基本的な感染防止対策は継続し、安心して利用できる図書館を目指す。	B
方南	引き続き、多目的室、対面朗読室の閲覧開放を行い、より快適な読書環境を提供する。	A
今川	終日窓を開けて換気を行ったこともあり、場所によって適切な温度管理が難しい時期があった。館内数箇所に温度計を設置し、温度調整に努めたが、特に夜間はどうしても寒くなってしまう所があった。	A

○ 子ども読書活動の推進

	令和3年度の目標	取組結果
中央	感染症防止対策等を取りながら、事業が継続できるよう検討する。人が集まる事業はオンライン開催を検討、実施する。YAコーナーの活用を向上させるために、ブックリストの周知方法を検討する。	児童行事は、感染症防止対策を取りながら実施することができたので、オンライン開催は行わなかった。YA向けブックリスト「いま、この本」で紹介した本の展示を、1階展示コーナーにおいて、2カ月にわたり実施し、YAコーナーの周知につなげた。
永福	子ども参加型企画を導入することにより、図書館利用のきっかけをつくり、その後の読書活動に繋げる。	七夕では利用者の方に短冊に願いごとを書いてもらい、読書スタンプラリーイベントにおいても参加者に感想を募り展示した。
柿木	子どもが本や読書に関心をもてるようなイベントを企画し、本の展示や紹介を随時行う。	小学校へのブックトーク、図書館見学会、団体配本を行ったほか、人形劇、工作会、おはなし会、ハンドベルコンサート、スタンプラリー、児童書リサイクル等を行った。
高円寺	参加者同士の情報交換の場ともなるよう工夫しながら、親子で参加できる事業を実施する。	「おすすめの本紹介カード」を作成してもらい児童コーナーに展示し情報交換の場とすることができた。親子で参加できる図書館探検を実施し、図書館のバックヤードもお見せすることで、図書館に興味をもってもらうことができた。
宮前	感染防止対策を徹底しながら実施方法を工夫してイベントを開催し子どもたちの読書への関心を高める。	ワークショップや特別なおはなし会を定員を半数にして2回実施するなど、感染防止対策を優先させイベントを実施した。スタンプラリーや福引き、手作り絵本などのイベントを行い、読書への関心を高めつつ図書館の利用促進を図った。
成田	0歳・1、2歳と対象を分けたおはなし会の実施。保護者と読書を楽しむ段階から一人で本を読む段階への支援となるような展示を検討する。小学生向け事業の実施を目指す。	幼児と保護者のためのわらべうたの会を立ち上げ、0歳・1、2歳と対象を分け、年齢に合った会を定期的実施した。小学生向け事業を夏休み・春休みに実施するなど幼児向け以外の事業を積極的に実施した。ひとりで本を読む段階の支援となる展示準備を行った。
西荻	親子が楽しんで参加できる事業を実施し、図書館利用促進を図る。また、子育て支援の情報の場を提供する。	児童本リサイクル市、夏休みこども映画会、夏休み工作会を開催し、参加者から好評であった。また、夏休みスタンプラリーは利用者から大好評だったので、期間の延長を行い、冬休み期間にも実施した。
阿佐谷	親子で楽しむことのできる事業を実施し、子どもの図書館利用促進を図る。	親子参加型の事業として、おはなし会や工作会を実施した。基本図書の買い替えを進めるとともに子ども向けのおすすめ本の展示やブックリストの配布を行った。
南荻窪	「おさんぽおはなし会」、「出張おはなし会」の充実に向けての計画を立て、推進する。	近隣小学校でのブックトークを再開し、子どもたちの読書に対する意欲や興味を引き出すことに努めた。
下井草	新型コロナウイルス感染防止対策に留意し、おはなし会、工作会等の定例行事を行う。	定例行事であるおはなし会や工作会、シールラリーについて、感染防止対策を行った上で継続して開催した。また、ボランティアグループによるおはなし会も再開した。
高井戸	家族で読書体験を共有する「家読(うちどく)」の推進を行い、読書を通じて家族時間の充実を図る。	杉並区初めての取組である「家読(うちどく)」について、十分な準備期間や宣伝期間を設け、取り組むことができ、配布実績は285枚であった。コロナ禍で充実した家での時間を過ごすことができたという感想もいただき、好評を得た。
方南	本に興味を持ってもらえる事業を企画するとともに時事関連や事業で紹介した本の展示を行い、読書活動の推進を図る。	幼年童話100コーナーを設置したほか、夏休み行事とスタンプラリーの同時開催を行い、行事に伴う紹介本の展示も積極的に行った。
今川	生活様式やニーズの変化に合わせて、親子に向けた展示や安心して参加できる企画を考える。	親子で一緒に参加する工作会や落語会、紙芝居、演奏会などを実施した。「家族」をテーマにするなど、年間を通じて大人も子供も楽しめる展示を行った。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	児童の行事については令和4年度に改定した子ども読書活動推進計画に基づき、事業を見直しながら、継続する事業や新たな事業に取り組む。	A
永福	館内外での掲示を含め、来館者へのアピールを強化し、イベント参加の促進につなげる。	B
柿木	学校との連絡会について、令和3年度は開催できなかったため、令和4年度は開催する。一般利用者に借りられる本は団体貸出にまわしにくいので改善する。	A
高円寺	行事参加者同士が直接情報交換する機会を持つことが難しかったが、実施した行事はいずれも好評であったため、より充実した活動となるよう工夫を継続していく。	A
宮前	十分な感染防止対策を行ったうえで、夏休みのワークショップなどのイベントを実施する。五十周年記念行事に子どもたちの参加を図り、宮前図書館に対する認知を高め図書館の利用促進を図る。	A
成田	保護者のための情報コーナーの設置をしたが、さらに、読書案内ができるようなコーナー作りや、読書案内のスキルアップのための職員研修が今後の課題である。	B
西荻	子育ての情報交換の場として提供を行い、親子が気軽に参加することができる行事を引き続き行う。	A
阿佐谷	感染症対策のため、参加人数を制限していることもあり、募集定員を超えて参加できないことがあったため、事業を継続するほか、実施回数や参加人数の拡充が課題となった。	A
南荻窪	子ども読書活動の推進に関わる、展示やイベントの量を増やしていく。	B
下井草	おはなし会や工作会等の定例行事は、利用者に周知・定着していることから、これらの事業を継続するとともに、未利用者へのPRを行う。	B
高井戸	「家読(うちどく)」の配布方法や掲示方法など、課題を修正しながら引き続き継続していく。他館にも事例として広められるように、情報共有をしていく。	A
方南	行事開催の中では、本の紹介の時間を多めに設け、関連本の紹介を、行事後速やかに行っていく。	A
今川	定例のおはなし会を月曜日と木曜日の午後にしてはいたが、その時間帯は来館する子供が少なく、参加者が0名の回もあった。来館している親子連れの皆様に参加しやすい日程を伺い、令和4年度は曜日、時間を見直して実施する。	A

○ 他機関との連携

	令和3年度の目標	取組結果
中央	中央図書館受託事業者と他機関と連携する事業実施に係る分掌を確認しながら、実効性のある事業を進める。	委託事業者との分掌を明確にしながら、業務を実施した。
永福	近隣の保育園、小・中学校などの施設と積極的に連携をはかる。	中学生による本の紹介文、大宮保育園による貸出本の感想イラスト、永福小学校の校外学習の感想を館内に展示した。松ノ木中学校開催「職業人の講話」では講師として参加し、ケア24永福と協働し「認知症サポーター講座」を開催した。
柿木	学校との連携を積極的に行う。また、団体配本業務を地域の施設にPRする。	近隣小学校2校に、複数回のブックトークや図書館見学会、団体配本を実施した。工作会について区民センターの広報紙に掲載された。
高円寺	各学校等の希望に配慮しながら、団体貸出事業を実施する。積極的に職場体験の受け入れを行う。	学童クラブや保育園など新たな登録団体が増え貸出をすることができた。選書に来館することが難しい学校に対しては、職員が一定の学年の選書を担うなど連携を図った。コロナウイルス感染症の影響で中止となった学校もあったが、2校の職場体験を受け入れることができた。
宮前	近隣施設や地域団体が開催するイベントへ可能な限り積極的に参加する。	隣接するさざんか教室に七夕やクリスマスの飾り作成を依頼して図書館で飾ったり、職場体験や団体への資料の貸出などを通して、可能な範囲で事業の連携を図った。
成田	小学校、保育園、子ども子育てプラザ、子どもセンターなど近隣施設との情報交換を行えるよう環境を整えていく。	園児と先生が気軽に立ち寄ることができるよう受入体制を整えた。子ども子育てプラザに児童おたよりの毎月の配布をお願いした。中学校職場体験の受入、小学校図書館見学は1学年全クラスの受入を行った。
西荻	近隣の小中学校、近隣関連施設と連携をとり、事業の充実を図る。	読書週間記念事業として、東京女子大学の講演会を開催した。また、近隣の小中学校5校の学校司書との情報交換会を実施した。
阿佐谷	近隣の中学校と連携し、事業の実施や図書館のPRを図っていく。	子育てネットワーク会議に参加し、事業連携や地域情報の交換、お便りへ寄稿を行った。生徒によるおはなし会やPOP展示、布えほん展のほか、出張POP講座を実施した。
南荻窪	区内施設との連携や、地域に関連する講師や団体との関係を通じて事業の幅を広げていく。	区内の就労支援センターとの連携で、職場復帰につながる取組みを実施した。
下井草	地域の学校や区立施設と連携を図り、協働事業の実施を行う。(司書連絡会の実施、区民センターでの古本市の開催等)	近隣施設との協働事業については、子ども・子育てプラザ主催「プラザフェス」に協力し、読み聞かせ等を行った。学校や区民センターとの従来の協働事業は、感染拡大時期に重なったため実施せず、情報交換を行った。
高井戸	情報交換を密にとりながら「コロナ禍で何ができるのか」検討し、前向きに連携を進める。	ゆう杉並(児童青少年センター)との協働展示や高千穂大学の美術部作品展示など、新たに連携を広げることができた。例年行っている職場体験なども感染防止対策をとりつつできるだけ、受け入れられるように努めた。
方南	地域子育てネットワークに参加し、情報を共有するとともに近隣施設との連携を継続する。	近隣の児童館や、小学校での協働事業を開催することで、地域の団体同士の親睦を深め、連携を密にした。
今川	小中学校、保育園やゆうゆう館など、他機関との協働で展示や企画を行い、地域との連携を深める。	「荻窪中学校生徒の読書新聞」、「井荻小学校の子どもたちが作った本の帯作品展」など学校と協力した展示を行い、ご家族で作品を見に来て頂いた。近隣の視覚障害者支援総合センターにご協力頂き、点字資料の展示を行った。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	各計画に基づき、分掌業務における他機関との連携を推進していく。	B
永福	コロナ禍も沈静化してきたため、併設の大宮保育園など近隣一部機関だけではなく、連携機関先を広げる。	B
柿木	地域にある各種団体との協力、交流を通じて、読書活動を推進する。	B
高円寺	保育園、小中学校、学童クラブなどの団体貸出を中心に他機関との連携を図るほか、図書館バッグの配布の機会を利用したブックトークや図書館紹介などを積極的に実施していく。	B
宮前	小学校への図書館バッグ配布時の説明や、保育園・幼稚園への出張おはなし会、高井戸地域子どもセンターとの連携事業など、感染症の影響で中止となっている事業で連携先が受入可能なものがあれば、事業の再開を図る。	B
成田	地域子育てネットワーク事業の縮小開催や会議が減ったことにより、なかなか顔を合わせた意見交換、情報交換ができなかった。そういった状況で連携できる手段を考えていく必要がある。	B
西荻	子どもたちの読書活動を推進していくために、学校司書と連携して子どもたちに読書や図書館行事に参加すること促す。	A
阿佐谷	近隣の小中学校や地域子育てネットワークを活かした事業連携を継続していく。合わせて、区内の公共施設との連携を図る。	A
南荻窪	就労支援センターとの取組の継続と地域関連の取組を考える。	B
下井草	地域の読書活動に貢献するため、近隣の学校や施設との連携を続ける。	B
高井戸	新たに協働を開始した団体とさらに事業を企画し発展させていく。障害のある子の職場体験を支援する「ふれジョブ」の参加も検討する。	A
方南	引き続き、地域子育てネットワークとの連携を深めることで、子ども達の読書活動の向上に努める。	A
今川	令和4年度は更に地域の催しに積極的に参加していく。	A

○ 人材育成・研修計画

	令和3年度の目標	取組結果
中央	全館対象の図書館初任者研修を感染症対策を講じたうえで、実施する。会計年度任用職員を対象とした各係長・各館長による公務員倫理及び情報セキュリティ研修の確実に実施し、常勤職員の司書資格取得を積極的に支援する。	感染症対策を徹底することで、2年ぶりに29名に対して図書館初任者研修を実施した。直営館の職員に対し、eラーニングによる情報セキュリティ研修を実施した。全館職員対象のレファレンス研修を実施し、職員の専門能力の向上を図った。区常勤職員の司書資格取得を図るため、受講者1名の推薦支援を行った。
永福	職員のスキル向上のため、研修を積極的に行う。	eラーニング研修、データベース研修、危機管理研修、フォローアップ研修などの内部研修を実施した。中央図書館、都立図書館開催研修に参加した。
柿木	外部研修への参加を奨励し、研修で得た知識の共有化を図る。	毎朝開館前の職場内ミーティング時や館内整理日に情報共有や研修をすることにより職員の能力向上を図った。また外部研修の受講を奨励した。
高円寺	館内研修だけでなく、外部研修にも積極的に参加し、研修内容を共有する。	外部研修には参加する機会が少なかったが、窓口業務の問題点や課題を中心に職場会で情報共有を図り課題解決に努めた。全体として職員のスキルアップにつながった。
宮前	eラーニングなどを活用して計画的に職員のスキル向上を図る。	本社が制作したeラーニング用の研修動画を各図書館員が視聴して学習したほか、司書をはじめとする資格取得などスキルの向上に努めた。
成田	集合研修だけでなく、eラーニングによる研修にも積極的に参加する。参加できるよう勤務体制の調整を図る。	eラーニングによる研修を積極的に受けるよう、研修情報の周知を行った。避難訓練、個人情報保護、人権研修、日常業務やカウンター対応手順の確認を職員全員で行った。
西荻	職員のスキル向上のために、職場内研修や各種研修に計画的に参加させる。	異動職員に対して、中央図書館での初任者研修、職場内での窓口業務を中心にOJT研修を行った。また、情報セキュリティのeラーニング研修を職員全員が受講した。
阿佐谷	全職員に個人情報保護、プライバシーに関する研修を行い日常業務に活かせるようにする。	個人情報やプライバシー保護に関する研修等を行った。指定管理者変更に伴って、オンライン研修のほか、業務手順の確認を行い、サービスの統一化を図った。
南荻窪	テーマを細分化し、それぞれに必要な外部研修への派遣を積極的に行う。	館内でのeラーニング研修が主で、受講したスタッフによるフィードバックを行った。他館との交流を通じて、接遇研修等を実施した。
下井草	館内研修や外部研修の計画を立て、スタッフの育成を図る。	充実したeラーニングを活用し、全スタッフが1回以上受講した。また、グループ3館合同研修として「おはなし会見学・情報交換」「接遇対応」を実施した。
高井戸	集合研修の代替として、eラーニングを活用し、サービスの向上に努める。	個々で行うeラーニングをスタッフ全員が受講することができた。それぞれの弱点や学びたい部分を受講して、自らの課題や目標を持つことができた。
方南	館内研修や個別研修を実施し、館全体のスキルアップを進めるとともに、手順の統一化を図る。	館内でのスキルアップ研修や、オンラインを使用している個別研修、また危機管理研修等を実施した。
今川	重点課題「世代間交流」に即して、「認知症サポーター養成講座」を受講する。下井草・南荻窪図書館とも連携し、多角的な研修を実施し、スタッフのスキル向上を目指す。	下井草図書館、南荻窪図書館と連携し、各館のおはなし会をまわる「合同おはなし会研修」を3回、「3館合同接遇研修」を1回行った。年間を通じてeラーニングやリモートの研修に参加した。カウンターでの基本手順を見直す「窓口研修」を繰り返し行い、ミスの防止に努めた。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	引き続き感染症対策を継続し、研修開催方法の工夫等を検討する。図書館サービスに関する職層や勤務年数に合わせた新たな研修計画が必要であり、図書館人材育成計画の作成について検討していく。	A
永福	引き続き館内研修、館外研修に参加できるよう調整を行う。館内ミーティングにおいてはフォローアップを行う。	B
柿木	館内整理日は職員全員が揃う日であり、職場内研修の場として積極的に活用していく。	B
高円寺	積極的に研修に参加するとともに、習得した知識を職場全体で共有し活用していく。	B
宮前	本社のeラーニング用の研修動画などを活用して学習を進めるとともに、それ以外の研修や講座などへの積極的な参加を促す。館内整理日には時間を工夫し、研修を行うことで図書館員の能力向上を図る。	A
成田	より積極的に研修が受講できるよう、研修内容の説明、受講への声掛けなど、調整が必要であった。全体で行う研修は毎年確実にいき、意識の定着化を図っていく。	C
西荻	職員が積極的に研修に参加できるように職場体制を整える。	B
阿佐谷	オンライン研修や外部研修をもとに内部研修を行い、研修で培ったノウハウを現場の業務に活かしていく。	B
南荻窪	外部の研修についても、機会があれば積極的に参加をしていく。	B
下井草	館内ミーティングを利用しての館内研修の実施や、外部の専門研修に積極的に参加する。	B
高井戸	隙間時間でもできるeラーニングを全職員が受講する。個々で研修内容をまとめ情報共有をして職員全員のスキルアップに繋げる。	A
方南	職員内のスキルアップ研修を継続し、より足並みの揃った業務を遂行できることを目指す。	B
今川	令和3年度に調整がつかなかった「認知症サポーター養成講座」は令和4年度に実施する。年間を通じてeラーニングによる研修等を全職員で受講する。	C

○ 広報・情報発信

	令和3年度の目標	取組結果
中央	速やかに、的確な情報を発信するのはもとより、受け手側に興味を持ってもらえるような表現方法を検討、実践する。	保健所応援のための地域館休館のお知らせの他、地域館の情報を広報紙やHPへの掲載を行った。館内のサインージへのこまめな情報更新も行った。
永福	おたよりによる行事告知に加え、デジタルサインージを活用した情報発信の強化を行う。	図書館HP、各種おたより、館内外掲示、サインージ等を用いて行事告知や情報発信に努めた。
柿木	柿木図書館のイメージキャラクターである「かき丸」を利用して、親しみやすい広報を行う。事業やお知らせについては、迅速に広報を行う。	カラープリンターの導入により、これまでよりも質の高いポスターや広報紙の作成が可能になった。「かき丸」のキャラクターを児童の催し等で積極的に活用した。
高円寺	「図書館だより」を定期発行(毎月)するほか、イベントポスターやチラシなど、内容を工夫し情報発信する。	図書館HPにより行事や展示、おすすめ本の紹介等情報提供を行った。特に、YAコーナーの展示に力を入れていること等積極的な情報発信ができた。
宮前	SNS(Twitter)など様々な媒体を利用して効果的に情報を発信し、講座やイベントの宣伝を通じて利用者を図書館に呼び戻す。	Twitterにより宮前図書館の開館状況やイベント、展示等を告知したほか、マスコットキャラクターを利用した動画を作成して投稿する等効果的な情報発信に努めた。
成田	児童・一般向けに定期的におたよりを発行し、近隣施設へ配布する。YA世代向けの情報発信を検討する。	新規にYA向けおたよりを作成、年2回発行した。児童・YA向けにそれぞれポストを設置し、おすすめの本やイラストを募集し、掲示した。館内に区内外のイベントや情報チラシの置き場を設置した。
西荻	図書館事業について、広報すぎなみ・区ホームページ・図書館ホームページへの継続掲載を行う。また、毎月発行のおたよりの内容の充実を図る。	西荻YA新聞を1回発行し、「中学生がおすすめする本」や展示コーナー特集の記事を掲載した。
阿佐谷	近隣の小中学校や施設に図書館をPRするための図書館だよりイベントのチラシ等の配布の協力を仰ぐ。	近隣の小中学校、児童館や保育園等に図書館だよりを送付し、協力を仰いだ。配布物・掲示物コーナーを見直し、設置箇所を拡充し、近隣施設のお便りやイベントチラシ等をジャンル別に設置した。
南荻窪	SNSを活用した、広報強化の計画を立て、推進する。	図書館利用の促進と利便性を図ることを目的とし、図書館に関する情報をTwitterにて発信した。
下井草	図書館だよりを定期的に継続発行するとともに、SNSによる情報発信を検討・実施する。	図書館だより4種の紙面をフルカラーに変更したことで、目につきやすく、読みやすくなった。また、玄関に案内板を設置し、図書館のお知らせをわかりやすく来館者に周知した。SNSによる情報発信を検討・計画した。
高井戸	SNS(Twitter)を活用して図書館の利便性や楽しさを発信し、図書館利用に繋げる。	SNS(Twitter)を使い、展示の情報や図書館利用法をクイズ形式で発信したり、動画や図書館キャラクターを活用し、大人も子どもも図書館の利便性や活用術を楽しみながら得られるように工夫することができた。
方南	杉並区内や近隣施設の情報を収集し、地域情報の発信拠点としての役割を果たす。また、利用者目線での情報発信を心掛ける。	月毎の図書館通信の発行を継続し、新着資料の紹介や行事案内等を盛り込んだ。掲示板の見直しを図り、スペースの拡充に努めた。
今川	感染防止対策を図りつつ、積極的な情報発信は何か出来るかを考え、利用者のニーズにあった広報活動を行う。	利用者開催の情報が分かりやすく伝わるよう掲示板を刷新した。また利用者満足度調査で頂いた質問や要望をQ&A形式で出入口に貼り出し、利用者共通の疑問に答える形にした。

	次年度に向けた課題・改善点等	自己評価
中央	わかりやすい表現で周知してはいるが、もっと興味を持って見てもらえるように表現の工夫をするとともに、図書館ホームページの見直しや、館内のサイネージや区公式 Twitter 等のツールの活用も進める。	B
永福	児童行事においては、行事の告知場所を固定できなかった。次年度は、告知場所を特定し利用者が見やすいように工夫し、新規参加者の獲得に努める。	B
柿木	新型コロナウイルス感染防止で事業の参加者を抑えるため、ホームページ等のお知らせを控えていたが、今後は様子を見ながら広報を積極的に行う。近隣施設にも広報を行う。	B
高円寺	読書や、行事参加へのきっかけとなるよう、おたよりやチラシを工夫し、内容の充実を図っていく。	B
宮前	感染症の拡大防止のためイベントの参加人数を制限するなか、図書館のホームページや Twitter 等限定的な告知となった。通常通りに戻せる状況になり次第、広報すぎなみなどを利用してさらなる利用の促進を図る。	B
成田	近隣施設へおたよりを配布する等積極的なアプローチをより行うべきであった。館内で発信する情報は整理し、受取りやすいよう配慮をしたが、より情報が見つけやすいよう工夫が必要である。	B
西荻	広報すぎなみ、区・図書館ホームページを活用して行事のPRを継続して行う。また、YA 向けのお便りの回数を増やし、中高生へのPRも行う。	B
阿佐谷	整備した配布物・掲示物コーナーを維持し、最新の情報を発信できるように管理し、更新していく必要がある。	A
南荻窪	より興味を持ってもらえる Twitter の画面作成のために、4コマ漫画等のビジュアル面での発信をより多くすることに努める。	A
下井草	SNS による情報発信について、引き続き実現に向けて計画を進める。	B
高井戸	図書館の情報を図書館ホームページや図書館だより、SNS (Twitter) を活用し、メディアミックスで展開していく。	A
方南	近隣施設の情報発信の場となるよう、より幅広く情報の収集を行っていく。	B
今川	令和3年度は感染防止対策も相まって、イベントや企画の大々的な周知は自粛したため、令和4年度は社会状況を見つつ、図書館ホームページや館外でのチラシ配布を積極的に活用していく。	A

<資料3> 図書館別総合評価

	令和3年度の成果	次年度へ向けた課題
中央	デジタルサイネージを活用して利用案内や情報提供の充実を図った。	様々な年齢層の方、ハンデキャップがある方が、必要なサービスや資料提供を受けることができるよう取組を進める。
永福	利用者の意見をもとに館内掲示、書架配置の改善を行った。積極的な働きかけにより、ボランティアの増員を図った。	初めての利用者も利用しやすい環境整備に努める。ボランティア連絡会を開催し、協働の事業を実施する。
柿木	重点課題コーナーを入口ロビーに設置したり、YAコーナーの本を入れ替えやサインやレイアウト、ディスプレイを一新した。	児童コーナーの展示スペースを改善するとともに、書架の配列替えを実施する。
高円寺	世相を反映したタイムリーな展示や、親子で参加できる図書館探検を実施した。児童書のキャラクターのぬいぐるみを展示して、楽しくつろいで読書ができる空間を演出した。	大人のみを対象とする事業の実施や、レファレンスサービスの利用促進と職員のスキルアップを進める。
宮前	eラーニングによる研修を積極的に受講し、レファレンスを始めとしたスキルの向上に努めた。	地域資料の収集を進め、地域資料コーナーの利用促進を図る。
成田	レファレンス担当者が、利用者が声をかけやすいようにバッジを着用した。職員間での事例の共有、統計資料の買換え等の体制整備を行った。	レファレンスサービスのスキルアップのため、職員研修や館内全体研修を確実に実施する。
西荻	地域にある大学、地域団体との連携による講演会を行った。	親子対象の事業、子育て支援の情報提供等を行い、参加者の増加につなげていく。
阿佐谷	就労支援・児童向け地域資料・子育て支援コーナー等を新設した。棚移動を行い、資料が探しやすい書架づくりを進めた。	古くなったレファレンス資料及び参考資料の更新を進める。
南荻窪	「蔵書規模の適正化」で生じたスペースに閲覧席テーブルやソファを設置し、居心地の良い読書環境を整備した。	ユニバーサルデザインとバリアフリーの観点で、書架案内図や館内掲示を刷新する。
下井草	児童向けのレファレンス資料の買い替えを進めると共に、書架見出しや書架案内図を掲示する等、利用しやすい書架づくりを行った。	館内のサインや注意掲示を更新する。SNSによる情報発信は実施に向け検討を進める。
高井戸	LLブック（やさしく読める本）の積極的な収集や車椅子の設置をした。「家読」について取り組んだ。	読書バリアフリーを意識したサービス展開を進めるとともに、障害のある児童・生徒の職場体験支援について検討する。
方南	夏休み期間中に児童レファレンスカウンターを設け、相談しやすい環境づくりを図った。幼年文学コーナーを設置した。	計画的な参考図書コーナーの構築を図る。近隣施設の情報発信の場となるよう幅広い情報の収集を行う。
今川	近隣小中学校の児童生徒の作品展示や、視覚障害者総合センターとの点字資料の共同展示など、他機関との連携を積極的に行った。	地域の情報発信施設として、近隣施設や地域の催しに積極的にに関わり、連携を更に進めていく。

<資料4>利用者満足度調査

1 アンケート用紙の配布・回収数及び回答者の状況

(1) アンケートの配布・回収数

利用者の図書館サービスへの満足度とニーズを把握するため、中学生以上の図書館来館者を対象に各図書館のカウンター及び館内でアンケート用紙を配布、回収した。

調査では、「図書館の職員について」ほか3分野12項目について、満足度を調査した。今回はアンケート用紙に二次元コードを印刷し、インターネットによる回答もできるようにした。

全図書館でのアンケート用紙の配布数及び回収率は下表のとおりである。

実施年月	配布数	回収数 (うちインターネット回収数)	回答率
令和4年5月	4,222枚	3,355枚 (176件)	79.5%

(2) 回答者の状況

回答者の年代は、多い順から40代21.9%、50代18.2%、60代16.9%、70代16.1%であった。10代から30代までの若年層は合計で19.2%と少数である。前回と比べると、若年層が22.6%から3.4ポイント減となった一方、60代から70代が28.8%から33.0%となり4.2ポイント増であった。

職業は、会社員・公務員36.1%、無職17.9%、家事専業14.0%の順となっており、前回とほぼ同じである。

来館頻度については、1か月に数回が65.8%、1週間に数回が22.8%となっており、合わせると全体の88.6%で、令和3年度の87.1%と比べ、1.5ポイント増となった。

2 アンケート調査項目

調査項目はアンケート用紙(48～49ページ)のとおりである。

〇〇図書館利用者満足度調査

このアンケート(利用者満足度調査)は、より良い図書館サービスの提供や図書館運営を行うため、皆様のご意見を反映させるためのものです。
ご協力をお願いいたします。



←こちらから
も回答で
きます。

○あなたご自身について、該当する番号を「○」で囲んでください。

年代	①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上
来館頻度	①初めて ②1週間に数回 ③1か月に数回 ④1年に数回 ⑤1年以上利用しない時もある
職業	①会社員・公務員 ②自営業 ③パート・アルバイト ④学生 ⑤家事専業 ⑥無職 ⑦その他

問1 図書館の職員について

問1-1 職員の対応はいかがですか(声がかかりやすいか、説明はわかりやすいかなど) (1つに○)

1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満

問2 図書館の本、新聞、雑誌等の資料について

問2-1 借りたい本は、そろっていますか (1つに○)

1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満

問2-2 新聞、雑誌など、閲覧用の資料はそろっていますか (1つに○)

1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満

問2-3 書架の状態や資料の状態は満足できますか (1つに○)

1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満

問3 図書館の施設について

問3-1 館内施設は利用しやすいですか(表示のわかりやすさ、清潔さなど) (1つに○)

1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満

問4 図書館のサービスについて

問4-1 予約・リクエスト (1つに○)

1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満 5 利用したことはない

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった 2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない 4 内容が魅力的でない

問4-2 レファレンス(調べもの相談) (1つに○)

1 満足 2 やや満足 3 やや不満 4 不満 5 利用したことはない

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった 2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない 4 内容が魅力的でない

【裏面に続きます】

問4-3 館内展示(資料展示・飾りつけなど) (1つに○)

1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 利用したことはない
------	--------	--------	------	-------------

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった	2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない	4 内容が魅力的でない

問4-4 行事(講演会・おはなし会など) (1つに○)

1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 利用したことはない
------	--------	--------	------	-------------

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった	2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない	4 内容が魅力的でない

問4-5 一般書・児童書・雑誌のリユース(再利用)提供 (1つに○)

1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 利用したことはない
------	--------	--------	------	-------------

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった	2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない	4 内容が魅力的でない

問4-6 OPAC(利用者用端末機)やWebからの図書等の検索 (1つに○)

1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 利用したことはない
------	--------	--------	------	-------------

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった	2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない	4 内容が魅力的でない

問4-7 パソコン利用について(図書館内設置のインターネット閲覧用パソコン・持込みパソコンによる無線 LAN の利用など) (1つに○)

1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 利用したことはない
------	--------	--------	------	-------------

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった	2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない	4 内容が魅力的でない

問4-8 図書館ホームページや図書館発行のおたよりなどの情報発信・PR (1つに○)

1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 利用したことはない
------	--------	--------	------	-------------

上記で、「5 利用したことはない」と回答した方は、理由をお答えください。(1つに○)

1 知らなかった	2 利用の仕方がわからない
3 利用しなくても支障がない	4 内容が魅力的でない

●その他お気づきのことやご意見がございましたら、ご記入ください(回答が必要なことは職員にお声かけください)。

【自由意見記入欄】

ご協力ありがとうございました。

3 項目別の回答割合

利用者満足度調査の項目について、「満足」と「やや満足」を合計した回答割合をまとめた。

図書館名	職員の対応		借りたい本		新聞・雑誌		書架・資料の状態		館内施設		予約・リクエスト		レファレンス (調べもの相談)	
	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減
全館	97.4%	0.1	77.7%	-0.2	80.9%	-0.4	88.8%	0.5	92.6%	-0.3	79.6%	0.8	38.1%	-1.4
中央	95.1%	4.0	79.5%	0.5	84.4%	3.8	91.6%	7.0	95.1%	4.4	79.9%	10.0	36.9%	-1.1
永福	98.0%	-0.1	85.1%	5.2	89.1%	4.5	90.1%	-1.5	93.5%	1.4	74.1%	-3.5	41.7%	-0.8
柿木	94.5%	-2.4	73.6%	-3.0	76.9%	-5.5	83.6%	-6.5	82.7%	-9.6	77.4%	0.0	37.3%	-7.0
高円寺	96.1%	-0.6	74.8%	2.7	75.2%	-1.9	77.7%	-5.5	85.4%	-4.4	76.5%	-3.5	35.7%	-0.1
宮前	98.6%	2.1	75.1%	-3.1	82.3%	-2.4	89.2%	1.4	90.3%	-1.5	84.4%	-1.6	40.1%	-1.5
成田	98.8%	1.9	77.1%	2.1	81.8%	2.9	87.7%	2.5	92.1%	-0.1	79.5%	0.0	39.9%	5.5
西荻	96.4%	-2.2	69.9%	-5.5	75.9%	-7.0	86.7%	-2.2	92.0%	-0.5	84.1%	2.7	35.5%	0.4
阿佐谷	98.1%	2.0	78.3%	3.8	76.8%	0.6	88.2%	2.9	93.2%	2.3	82.1%	-0.9	36.7%	-3.7
南荻窪	97.7%	-1.2	80.1%	2.4	79.2%	-2.6	88.2%	-0.4	96.4%	2.5	80.0%	1.5	34.9%	-3.5
下井草	98.3%	0.2	76.4%	-2.4	81.3%	-0.1	88.8%	-3.1	94.6%	-0.4	73.8%	-6.8	39.1%	-8.3
高井戸	96.9%	-2.0	79.7%	5.1	79.3%	3.6	91.6%	3.9	94.7%	-0.4	85.5%	3.1	38.2%	-1.5
方南	99.6%	1.3	77.6%	-5.2	82.2%	-2.3	93.8%	3.4	96.3%	2.1	82.2%	5.6	42.7%	1.7
今川	99.0%	0.0	83.7%	-1.9	86.7%	0.7	95.4%	1.3	98.3%	1.3	74.7%	-1.5	37.9%	0.7

図書館名	館内表示 (資料展示・飾りつけなど)		行事 (講演会・お話し会など)		リユース		OPAC		パソコン利用		情報発信・PR	
	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減	今回	増減
全館	81.3%	1.6	34.0%	0.2	51.9%	1.3	70.9%	-0.5	39.0%	0.1	65.1%	1.3
中央	82.1%	4.3	28.4%	3.7	40.7%	-0.3	68.8%	0.7	48.0%	2.0	60.8%	1.6
永福	87.9%	6.8	43.7%	16.5	45.8%	0.6	67.7%	-0.2	51.6%	17.1	73.4%	12.9
柿木	77.1%	2.0	32.1%	-2.9	52.3%	-4.5	73.6%	0.9	42.0%	-2.2	65.7%	0.7
高円寺	76.5%	-2.3	22.5%	-6.0	39.9%	-2.8	66.8%	-1.1	30.4%	-2.2	60.7%	0.5
宮前	86.1%	-2.8	40.3%	8.0	52.7%	-5.0	74.5%	3.6	39.8%	1.4	69.7%	-2.1
成田	77.2%	3.0	33.2%	-0.1	54.8%	-2.9	65.8%	-8.9	30.4%	-8.8	61.5%	-0.4
西荻	78.4%	-2.5	27.0%	-3.8	49.4%	5.3	75.0%	-1.5	39.2%	-0.3	63.9%	-1.2
阿佐谷	79.0%	8.1	35.1%	2.9	57.8%	-0.2	68.4%	-2.1	34.6%	2.6	68.7%	13.3
南荻窪	82.2%	1.5	36.1%	-3.5	53.6%	2.4	73.1%	2.5	31.7%	-4.6	63.3%	-0.3
下井草	76.6%	-7.2	31.6%	-3.1	58.7%	2.4	66.0%	-4.2	39.3%	-2.7	60.3%	-2.7
高井戸	82.9%	-3.0	37.1%	-7.3	51.8%	-2.5	70.6%	0.5	42.5%	-0.1	66.5%	-2.2
方南	86.0%	6.7	43.9%	3.3	56.6%	5.0	74.1%	-2.0	34.1%	-1.9	63.9%	-4.5
今川	85.2%	6.9	32.7%	-3.7	61.4%	12.7	75.6%	3.3	39.1%	2.3	68.9%	2.2

※前年度比で増加した数値を太字・網掛けで表示している。

4 アンケート調査項目に対する自由意見

アンケート回収数 3,355 枚に対して、自由意見記入欄に回答のあった枚数は 976 枚（回答率 29.1%）であった。1つの自由意見の中に複数の内容に関する記入があった場合は、それぞれ 1 件として計上した。このため、自由意見記入欄の回答枚数と意見数とは一致しない。

なお、寄せられた自由意見については各館の運営の参考としている。

自由意見記入欄に回答のあった意見数

内訳		件数	割合	肯定的意見	要望等	その他
設問に関連する意見	問1-1 職員に関すること	132	11.0%	89	41	2
	問2-1 図書・視聴覚に関すること	141	11.7%	18	119	4
	問2-2 新聞・雑誌に関すること	19	1.6%	0	17	2
	問2-3 書架・資料の状態に関すること	49	4.1%	8	40	1
	問3-1 図書館の施設に関すること	193	16.1%	89	103	1
	問4-1 予約・リクエストに関すること	158	13.2%	51	104	3
	問4-2 レファレンスに関すること	10	0.8%	4	5	1
	問4-3 展示に関すること	32	2.7%	26	6	0
	問4-4 行事（講演会等）に関すること	37	3.1%	16	20	1
	問4-5 リユースに関すること	6	0.5%	2	4	0
	問4-6 OPAC・Webでの検索に関すること	64	5.3%	6	57	1
	問4-7 パソコン利用に関すること	21	1.7%	1	20	0
	問4-8 情報発信・PRに関すること	31	2.6%	1	29	1
設問に関連していない意見	図書館運営に関すること	45	3.7%			
	図書館利用に関すること	27	2.2%			
	図書館利用者に関すること	32	2.7%			
	図書館システムに関すること	34	2.8%			
	感謝	132	11.0%			
	アンケートに関すること	9	0.7%			
	その他	29	2.4%			
自由意見記入欄 合計		1,201				

※件数の割合は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

	全館	中央	永福	柿木	高円寺	宮前	成田	西荻	阿佐谷	南荻窪	下井草	高井戸	方南	今川
4-4 行事(講演会・おはなし会など)														
満足	536	47	53	35	20	56	33	33	33	38	31	46	58	53
やや満足	493	45	30	57	21	40	43	30	48	37	34	36	42	30
やや不満	91	10	4	7	12	5	7	14	4	4	10	6	4	4
不満	11	0.4%	1	0	2	0	0	1	1	2	0	1	2	0
利用したことはない	1,900	62.7%	221	188	65.5%	137	57.8%	146	63.8%	127	61.1%	131	63.6%	132
計	3,031	100.0%	324	100.0%	190	100.0%	287	100.0%	231	100.0%	206	100.0%	228	100.0%
未記入	324	22	11	42	24	39	24	16	32	13	35	6	13	47

	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成
利用したことはない理由															
知らなかった	195	11.7%	45	20.4%	14	13.7%	6	12.2%	5	17.2%	9	6.8%	18	12.3%	10
利用の仕方がわからない	60	3.6%	10	4.5%	5	4.9%	3	6.1%	0	0.0%	11	8.0%	3	2.1%	4
利用しなくても支障がない	1,068	64.2%	119	53.9%	66	64.7%	30	61.2%	23	79.3%	92	67.2%	103	70.5%	102
内容が魅力的でない	99	6.0%	15	6.8%	8	7.8%	2	4.1%	1	3.5%	4	2.9%	11	7.5%	10
未記入	241	14.5%	32	14.5%	9	8.8%	8	16.3%	0	0.0%	21	15.3%	11	7.5%	23
計	1,663	100.0%	221	100.0%	102	100.0%	49	100.0%	29	100.0%	137	100.0%	146	100.0%	155

	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成
4-5 一般書・児童書・雑誌のリリース(再使用)提供															
満足	808	26.7%	70	21.7%	58	30.2%	68	23.7%	38	20.8%	71	30.0%	58	25.2%	56
やや満足	762	25.2%	61	18.9%	30	15.6%	82	28.6%	35	19.1%	54	22.8%	68	29.8%	59
やや不満	126	4.2%	6	1.9%	8	4.2%	17	5.9%	19	10.4%	12	5.1%	6	2.6%	9
不満	12	0.4%	3	0.9%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.4%	1
利用したことはない	1,318	43.6%	182	56.5%	96	50.0%	119	41.5%	90	49.2%	100	42.2%	97	42.2%	108
計	3,026	100.0%	322	100.0%	192	100.0%	287	100.0%	183	100.0%	237	100.0%	230	100.0%	233
未記入	329	24	9	42	23	40	23	16	33	14	35	7	13	50	

	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成
利用したことはない理由															
知らなかった	365	27.7%	64	35.2%	29	30.2%	24	20.2%	37	41.1%	19	19.0%	34	35.1%	30
利用の仕方がわからない	108	8.2%	19	10.4%	6	6.3%	18	15.1%	8	8.9%	12	12.0%	9	9.3%	5
利用しなくても支障がない	617	46.8%	69	37.9%	48	50.0%	55	46.2%	39	43.3%	47	47.0%	42	43.3%	53
内容が魅力的でない	66	5.0%	6	3.3%	3	3.1%	8	6.7%	2	2.2%	5	5.0%	6	6.2%	7
未記入	162	12.3%	24	13.2%	10	10.4%	14	11.8%	4	4.4%	17	17.0%	6	6.2%	13
計	1,318	100.0%	182	100.0%	96	100.0%	119	100.0%	90	100.0%	100	100.0%	97	100.0%	108

	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成	回答	構成
4-6 OPAC(利用者用端末機)やWebからの図書等の検索															
満足	1,342	44.2%	145	44.8%	78	40.6%	127	44.1%	73	39.7%	110	46.0%	94	40.7%	104
やや満足	811	26.7%	78	24.1%	52	27.1%	65	29.5%	50	27.2%	68	28.5%	58	26.0%	54
やや不満	233	7.7%	26	8.0%	16	8.3%	17	5.9%	15	8.2%	25	10.5%	22	9.3%	15
不満	70	2.3%	9	2.8%	5	2.6%	7	2.4%	5	2.7%	4	1.7%	6	2.6%	9
利用したことはない	579	19.1%	66	20.4%	41	21.4%	52	18.1%	41	22.3%	32	13.4%	51	22.1%	34
TOTAL	3,035	100.0%	324	100.0%	192	100.0%	288	100.0%	184	100.0%	239	100.0%	231	100.0%	232
未記入	320	22	9	41	22	38	22	17	35	13	35	6	13	50	

杉並区立図書館サービス基本方針

I 図書館サービス基本方針の策定について

1 策定の背景・趣旨

今、図書館を取り巻く状況は、電子書籍や音楽配信サービスの普及など情報化の急激な進展、団塊世代の本格的な地域還流、若者世代の活字離れ、地域における知的活動意欲の高まりなど大きく変化してきています。図書館には、これらの変化への的確な対応が求められています。

また、杉並区では今年度、全小中学校に学校司書を配置しましたが、これまで以上に「調べ学習」への対応の充実など、図書館と学校との連携・協力を図ることが重要となっています。

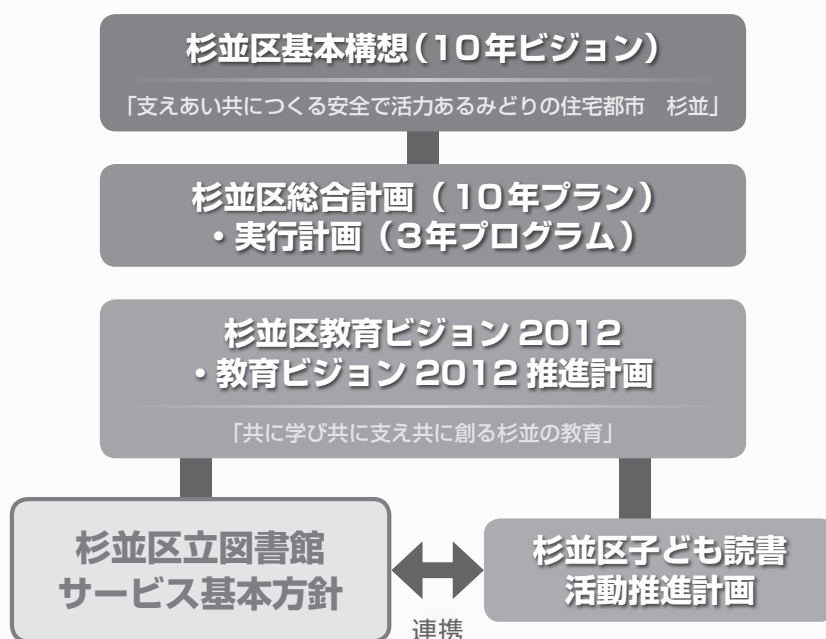
杉並区では、これまで「区民の書齋」である図書館として、全国トップクラスの230万冊におよぶ蔵書の充実をはじめ、他自治体に先駆けてのブックスタート事業や「子ども読書活動推進計画」の策定・推進に取り組んできました。また、運営面では、図書館協議会への公募区民の参画や、指定管理者制度の導入、経営評価の実施など、時代の流れに応じた取組を進めてきました。

しかし、今後、時代のニーズを的確に反映し図書館サービスの向上を図るためには、新たに中長期的視点から杉並区の目指すべき図書館像を明らかにする必要があるとの認識から、このたび「杉並区立図書館サービス基本方針」を策定しました。

この基本方針は、学識経験者・区民・関係団体代表者等で構成された図書館協議会に諮り、6回にわたる幅広く熱心な議論を経てまとめられた原案をもとに策定したものであり、今後10年間の図書館の羅針盤として、望ましい図書館サービスのあり方と、その実現に向けての取組の方向性を明らかにするものです。

2 位置付け

「杉並区立図書館サービス基本方針」は、杉並区基本構想（10年ビジョン）、杉並区総合計画（10年プラン）・実行計画（3年プログラム）、杉並区教育ビジョン2012・教育ビジョン2012推進計画を踏まえるとともに、「子ども読書活動推進計画」との連携を図り策定しています。



Ⅱ 10年後の図書館像

図書館は進化する

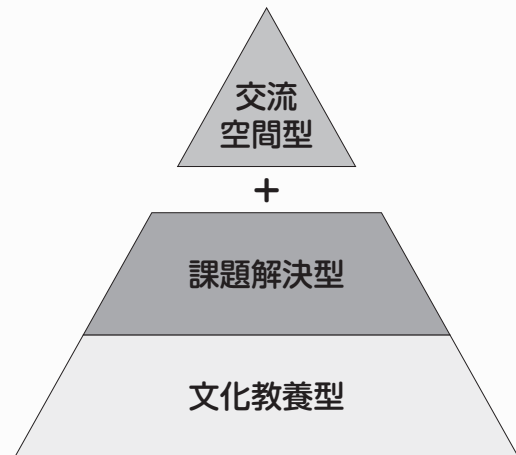
～学びの場・知の共同体・楽しい交流空間へ～

これまで図書館は、資料を収集し、その資料が生涯学習や調査研究、趣味・娯楽などの様々な目的に活用される、いわゆる文化教養型施設としての役割を担ってきました。近年は、さらに個人や地域における課題解決に役立つための役割が重視されるようになり、レファレンスサービス*の充実やデータベースの活用などの取組を進めてきました。

今後はさらに、様々な区民が気軽に集い交流するとともに、各々の能力や関心に応じて、互いに連携・協力しあう交流空間としての役割が求められています。

*情報を求める人に必要な資料の調べ方を案内すること、必要な資料・情報を提供すること

このような時代の流れや図書館の進化を踏まえ、これからの10年に臨む基本的姿勢として、次のような図書館像を描いています。



10年後の杉並区立図書館像

個の学びの場であり、自己実現を支援する役割が果たされている

個人が学んだ成果を仲間や他の人々と共有することや、他の生涯学習・社会教育施設、小・中学校との連携・協働などにより、「知の共同体」として新たな価値が創造されている

人と情報・人と人がつながり、図書館で働く人々と、ボランティア、利用者などがコミュニケーションを深め、集い、交流する場となっている

Ⅲ 3つの視点と取組の方向

1 「学びの場」としての図書館 ～学び・自己実現を支援します～

図書館は、区民の皆さんの学びや自己実現を支援する場であり、知りたい情報にいつでもアクセスできる「地域の学びの場」としての役割を担っていきます。

10年後の姿

- ニーズに応じた多様な資料が揃い、誰もが利用しやすい環境が整っています。
- 情報通信技術を活用し、誰もがどこからでも図書館の資料を活用しています。
- 図書館への来館が困難な方でも、貸出などのサービスを受けることができるようになっていきます。

取組の方向

- 図書館には約 230 万冊もの膨大な資料があります。また、誰でも使えるインターネット環境や有料データベースなど、図書資料のみならず多様な情報へのアクセス手段が用意されています。図書館の基本的な機能としては、これからも「知りたいことが図書館に行けばわかる」という情報集積の拠点として、資料を収集し、利用者が活用しやすいように整理したうえで提供していきます。
 - もとより、図書館に、趣味や娯楽のための本や映画など、いわゆるエンターテインメントに関する資料を求めてくる人も多くいます。特に、団塊世代が 65 歳を迎え、本格的に地域に戻ってきつつあり、図書館を活用して新たな活動に取り組んだり、余暇を楽しんだりする機会が増えてくることが考えられます。こうした人たちに、図書館の良さを理解していただくためにも、資料の充実や適切な情報収集に努めていきます。
 - 急速な情報通信技術の進展に対応して、音楽配信サービスや電子書籍の導入、ソーシャル・ネットワーク・サービス*1 等の活用の検討など、電子図書館としての機能を充実させていきます。これにより、時間や場所に拘束されずに図書館が持つ情報と情報ネットワークを利用することが可能となり、利便性の向上が図られます。一方で、電子情報へのアクセスが困難ないわゆる IT 弱者は、現在入手できる情報量が圧倒的に少なくなっています。そうした区民のためにも、図書館という場を活用して、情報リテラシー*2 の向上に取り組めます。
- ※ 1：インターネットを使って、特定の関心をもつ人同士が出会うチャンスをつくり、情報交換ができるようにするサービスの総称。略称 SNS
※ 2：情報機器を利用して、膨大な情報の中から必要な情報を抜き出し、活用する能力のこと
- 図書館への来館が困難な方であっても図書館サービスを受けることができるよう、病院・施設への団体貸出や宅配サービスなど、様々な方法を検討していきます。

2 「知の共同体」としての図書館 ～情報の共有と活用を進めます～

区民の皆さんが自ら学び、新たに身に付けた知識や技能を、図書館を媒介にして共有し、活用していくことで、地域社会に還元できるような環境を整えていきます。

10 年後の姿

- 個人の学びの成果を、仲間や他の利用者と共有する場＝「知の共同体」として、図書館が機能しています。
- 区内の様々な団体との協働により、図書館で多様な事業が行われています。
- 杉並にゆかりのある人物の本や、杉並に関する歴史や地誌、地場産業や固有の文化など、「杉並」に関する資料が蓄積され、多くの人に利用されています。

取組の方向

- 図書館には多くの情報があり、それを求めてやってきた人たちが、自らの課題解決や自己実現のために活用しています。こうした人たちの学習成果や、地域の人たちが持っている技能・アイデア・能力などを発揮できる環境を「知のインフラ（基盤）」として蓄積・共有化し、地域社会に還元できるようにしていきます。
- 外部の人材や専門家を活用した講座や講演会の実施を通じて、受講者のスキルアップを支援していくとともに、そこでの学びの成果を地域社会に還元していくために、受講者同士の情報共有の場を提供するなど、新たな図書館の活用を考えていきます。
- 多くの区民が利用する図書館には、資料だけではなく、それぞれの区民や団体が持つ多くの知識や経験が集まっています。図書館は、こうした知識などを若い世代に伝えていき、その世代がやがて大人になったときに、さらに若い世代に伝えていくような、「知の循環」の中核として、また、就学前教育から学校教育、生涯学習への切れ目ない連携

の中心となる施設としての役割を担っていきます。

- 杉並に関する文化的資料の蓄積は、公立図書館だからこそ取り組まなければならない課題です。こうした情報の収集も、地域の人々の協力なくしては成り立ちません。図書館の使命として、歴史的資料のみならず、現在、そして将来的に必要であろうと考えられる資料を、地域の人々と一緒になって、積極的に保存・伝承していきます。

3 「楽しい交流空間」としての図書館 ～区民と共に成長します～

図書館は、誰もが気軽に集え、交流できる場として、区民とともに成長・進化し続けていきます。

10年後の姿

- 多くの区民が、図書館の様々な取組や活動に連携・協力し、「区民が主体的に参画する」図書館が実現しています。
- 区民等との積極的な協働により、障害者や高齢者・子ども向けの多様なサービスが充実しています。
- 従来の「静かで落ち着く空間」としての図書館を基本としつつ、「明るく楽しく人が集う空間」としても図書館が活用されています。
- 施設・設備がユニバーサルデザイン*化され、誰もが気軽に図書館を訪れることができるようになっています。

*年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能できるようにデザインすること



取組の方向

- 図書館には、多くの人を訪れています。平成23年度の区民意向調査では、約4割の区民が、年に1回以上図書館を利用していると答えています。
このように多くの区民に利用されている図書館は、積極的に利用者の声に耳を傾けるとともに、図書館のモニターを募ってその意見を運営に反映させ、協力を受け、さらには一緒になって図書館をより良くしていくことにより、「区民が楽しみ、区民が主体的に参画する図書館」に変わっていく必要があります。全ての区民が「図書館に行ってみたい」と思えるような魅力的なサービスを提供し、「図書館に行けば何かある」、「図書館に行けば抱えている問題が解決できる」と思える、知的好奇心をくすぐるような楽しい空間を創っていきます。
- 講演会や講座、ワークショップなどを開催することにより、区民の興味・関心の幅を広げる機会や発表の場を提供する中で、同じ興味や関心を持った人たちの交流の場としての図書館の役割を広めていきます。
- これまでも図書館は、ボランティアの協力を得て、障害者サービスや子どもたちへの読み聞かせなど、様々な事業を行ってきました。こうした取組は、今後もさらに継続・発展させていく必要があります。そのためには、今後もボランティアとの協働による多様なサービスの提供と、それを支える人材育成が欠かせないものとなっています。高齢者や障害者のサービスを充実させていくためにも、ボランティアのみならず様々な面で図書館を支援してくれる人たちとの協働を進めていきます。
- 幅広い層の区民が気軽に集え、交流できる場になるためには、「集い、活動したくなる空間」になる必要があります。そのため、静かで落ち着いた雰囲気だけにとどまらず、会話を楽しめたり飲食ができたりするスペースの確保など、明るく楽しい雰囲気も作っていきます。
- 誰もが利用しやすい図書館となるためには、施設・設備のユニバーサルデザイン化や省エネルギー化など、設備の充実も欠かせません。誰もが使いやすい図書館になるよう、施設・設備を充実していきます。

Ⅳ 取組推進のための基盤整備

1 関係機関とのコラボレーション（協働）

図書館は、生涯学習施設に位置付けられていますが、区内には他にも社会教育センター、郷土博物館、科学館など、多様な社会教育・生涯学習施設があり、こうした施設との連携も欠かせません。また、区内大学図書館との連携も重要なものとなっています。

各種資料やプログラム、PRの連携など、積極的にコラボレーションすることにより、さらに高いレベルのサービスを提供していきます。

また、平成24年度には、区内全ての小・中学校に学校司書が配置されました。学校司書は、小・中学校の図書館での蔵書管理や、児童・生徒へのサービス、教員への授業支援などをする専門スタッフで、区立図書館などの関係機関と学校とをつなぐ存在としての役割も期待されています。図書館は、積極的に学校図書館を支援するとともに、学校司書との連携により、学校教育における読書活動への支援を強化していきます。

こうした連携を重視した取組を進めることにより、将来的には、基本構想や教育ビジョンにも掲げる、「生涯にわたる切れ目のない支援」の実現を目指します。

2 専門家の育成・活用

区民のニーズに応えるためには、図書館運営に関わる全ての職員がそれぞれの担当分野において「専門家」となることが必要です。

まず、司書の資格を持つ職員のレファレンス能力を向上させることにより、利用者のニーズに的確に応えていきます。また、図書館にとっては、どのような資料が用意されているかが、とても重要です。そのため、職員のスキルアップに取り組み、選書能力の強化を図ります。

さらに、施設管理や情報化、サービス全般についても、それぞれの担当者がプロフェッショナルとしての自分の役割を認識した上で、より良い図書館運営のための取組を進めていきます。

また、図書館同士がお互いのサービス内容を理解し、他の図書館が実施する良いサービスを見習うなど、図書館全体としてより良いサービスが提供できるような取組を進めていきます。

さらに、外部の学識経験者など専門職の協力により、その知識・経験や技術をサービスの拡大に活用していきます。

3 積極的な広報・PR活動

図書館は多くの区民に利用されていますが、それでもまだ5割以上の区民が図書館を利用したことがないという状況にあります。「本は自分で買う」や「近くに図書館が無い（場所を知らない）」という声があるほか、様々な催しや企画展を行っているにもかかわらず、図書館からの発信や働きかけが足りず、行事などに関する情報があまり知られていない、などの指摘も受けます。

本来の図書館の機能や、将来像についてはこれまでも述べてきましたが、それらを区民と共有し、図書館の活性化を図るためには広報活動も重要です。これまでも「広報すぎなみ」や区の公式ホームページ、図書館ホームページなどで広く広報活動を行ってきましたが、これからは、さらに一歩進んで、利用する価値のある施設だということを理解していただけるように、未利用者への働きかけなども含めて、積極的な情報発信を継続的に行っていきます。

Ⅴ 目標の実現に向けて

今後、図書館は、図書館サービス基本方針に掲げる図書館像の実現を図るため、具体的な取組事業について検討するとともに、これらをもとに各年度における事業の進行状況や到達度について、新たな仕組みによる図書館経営評価を行うことにより、PDCAサイクルに則った計画的な事業の推進を図ります。

また、図書館の持つ機能や可能性をより発揮していくためには、行政や事業者だけの力では十分ではありません。「学びの場・知の共同体・楽しい交流空間」を実現する図書館の担い手として、図書館の利用者をはじめ図書館を利用したことがない方々を含めて、より多くの区民の方に主体的に参加していただくことにより、目標の実現を図っていきます。

令和4年度
杉並区立図書館運営状況報告書

登録印刷物番号

04-0104

令和5年2月発行

編集・発行

杉並区立中央図書館

〒167-0051 杉並区荻窪三丁目40番23号

電話 03-3391-5754

* 杉並区及び杉並区立図書館の各ホームページでご覧になれます。

杉並区ホームページ <https://www.city.suginami.tokyo.jp>

杉並区立図書館ホームページ <https://www.library.city.suginami.tokyo.jp>